

ESOTERIC

DV-60

取扱説明書

エソテリック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

エソテリック製品は、最良の音質で未永くお使いいただくために、一台一台を厳しい品質管理のもとに製造しております。最良のコンディションでお使いいただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

未永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



HDMI



POWERED BY
ABT











目次

準備

安全にお使いいただくために	4
お使いになる前に	6
ディスクについて	8
リモコンの使い方	11
テレビとの接続	12
アンプとの接続	14
その他の接続	16
各部の名称 (本体)	18
各部の名称 (ディスプレイ)	19
各部の名称 (リモコン)	20

再生

     再生	22
見たい場面から再生するには	
     グループ/タイトル/再生エリア	25
     スキップ	25
     早送り/早戻し/数字キー	26
     リピート再生	27
     マルチアングル	28
     スロー再生/コマ送り	28
     音声を切り換えるには	29
     DVDの字幕を選ぶには	29
     映像出力のオン/オフ	30
     リップシンク機能	30
     ワードシンク	31
     アップコンバート	31
     FLディマー	32
     ディスクの情報を見る	32

各種設定

設定モード	35
i.LINK(AUDIO)端子の設定	37
HDMI端子の設定	38
設定画面について	40

音声の設定

アナログ出力	42
デジタル出力	42
CD再生	43
Dレンジコントロール	43
グループ再生	44
2ch ダウンミックス	44

画質の設定

画質モード	45
プログレッシブモード	46
DCDi	46

言語の設定

優先音声言語	47
優先字幕言語	47
字幕表示	48
OSD言語	48
言語コード表	49

環境設定






スピーカーのサイズ設定	50
スピーカーの距離設定	51
スピーカーのレベルの調節	52
テストトーンの長さの変更	52
デジタル音声出力	53
Dolby Digital/dts/MPEG Audio/ ダウンサンプリング	
映像出力	54
テレビ画面/S映像出力/コンポーネント/ PAL-NTSC変換/キャプション/スチルモード	
表示設定	56
画面表示/アングルマーク/背景	
視聴制限 (パレンタルロック)	56

その他

i.LINK (IEEE1394)	58
困ったときは	59
仕様	62
保証とアフターサービス	63

この取扱説明書で使っている記号について

注意：ディスクによっては機能しないことがあります。

-  **DVD** : DVDビデオで使う機能
-  **VCD** : ビデオCDで使う機能
-  **CD** : 音楽用CDで使う機能
-  **SA-CD** : スーパーオーディオCDで使う機能
-  **DVD-A** : DVDオーディオで使う機能

本機は*ドルビーデジタルデコーダーおよび**DTSデコーダーを搭載しています。

*: ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** : DTSおよびDTS 96/24は米国Digital Theater Systems, Inc.の商標です。

本機の映像出力には、米国Analog Devices社製の新NSV(Noise Shaped Video)技術により構成された高性能14bit216MHz映像6chDAC ADV7314を搭載しています。

新NSV技術は、マルチビット・デルタシグマ回路の技術でビデオノイズ成分を不要帯域に追いやることにより、アナログフィルタによって情報を損失することなく効果的にノイズを除去し、映像信号の高いリアリティと低ノイズ特性を実現しています。

NSVは米国Analog Devices, Inc.の登録商標です。



画像の輪郭に現れるギザギザを補正し、シャープかつ自然なイメージを投影できるDCDi(Directional Correlational Deinterlacing)技術を採用しました。

米国Genesis Microchip社の事業部「Faroudja」のDCDi回路は、ピクセル単位で輪郭部の傾き角度を検出し、その傾きに合った補間信号を生成することにより、ジャギーノイズを抑えたプログレッシブ映像に変換する技術です。

DCDiはGenesis Microchip社の事業部門であるFaroudjaの商標です。

この製品にはマクロビジョンコーポレーション及びその他の権利者が所有している米国特許の方法クレームその他の知的財産権で保護されている著作権保護のための技術が搭載されています。この著作権保護のための技術の使用に関しては、マクロビジョンコーポレーションの許可が必要ですが、家庭及びその他の限定された視聴に限っては許可を受けています。またリバースエンジニアリングや分解は禁止されています。




Super Audio CDとDSDは登録商標です。
DVDロゴはDVD Format/Logo Licensing Corporationの商標です。




「i.LINK」は、IEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様を示す呼称です。 は、i.LINKに準拠した製品につけられるロゴです。「i.LINK」と はソニー株式会社の商標です。



HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfacelは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

 警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。	
 電源プラグをコンセントから抜け	万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なにおいや音がするときは。 機器の内部に異物や水などが入ったときは。 この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店または弊社サービス部門に修理をご依頼ください。
	電源コードを傷つけない。 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。 コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店または弊社サービス部門に交換をご依頼ください。
 禁止	電源プラグにほこりをためない。 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない。 この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない。 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

 警告		<p>以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない。 カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または弊社サービス部門にご依頼ください。</p>	
 <p>強制</p>	<p>この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。 ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。 内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>	

 注意		<p>以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。</p>
 <p>強制</p>	<p>オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。 また、接続は指定のコードを使用する。</p>	
	<p>電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p>	
	<p>この機器は約14kgあり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する。</p>	
	<p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>	

安全にお使いいただくために



注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。
湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない。
調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。
火災・感電やけがの原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない。
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

ディスクの挿入口に手を入れない。
特にお子様にはご注意ください。けがや故障の原因となることがあります。



電源プラグを
コンセントから
抜け

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。



愛情点検

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
5年に1度は、販売店または弊社サービス部門に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

お使いになる前に

使用上の注意

- 本機の上には物を置かないでください。上に布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上に置かないでください。内部に熱がこもると、火災や故障の原因となることがあります。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなる場所に置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
- 再生中はディスクが高速回転しているので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。
- ガラスドア付きラックに設置した場合、ガラスドアを閉めたままリモコンのOPEN/CLOSEボタン(▲)を押してディスクトレイを開けないでください。強い力でディスクトレイの動きが妨げられると、故障の原因になります。
- 本機を移動したり、引っ越しなどで梱包する場合は、必ずディスクを取り出してください。ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。
- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムのそばの安定した場所に設置してください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。
- 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。そのため本機をVTRを通してテレビに接続したりVTRで録画して再生をすると、正常な再生画像が得られない場合があります。
- 床を傷付けたくない場合は、脚の裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。

外部接続した機器で録音する時の注意

- デジタル音声出力端子に接続した機器で録音するときは、「デジタル音声出力」の設定を「PCM」にしてください。(53ページ)
- ディスクによってはコピー禁止信号の入っているものがあります。コピー禁止信号の入っているディスクの音声をデジタル信号のまま録音することはできません。(音声をアナログで録音することは可能です)

付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

電源コード×1
リモコン(RC-1088)×1
リモコン用乾電池(単3)×2本
フェルト×3枚
取扱説明書×1
ご愛用者カード×1

ディスクについて

下の表に表示されているマークは、ディスクレーベルまたはジャケットに付いています。本機はこの表のディスクをアダプターなしで再生することができます。この表のディスク以外は再生できません。

本機で再生できるディスクの種類とマーク

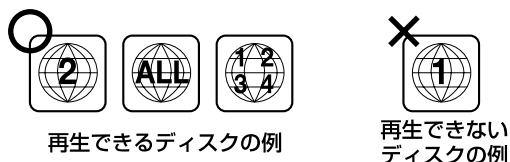
DVDビデオ	
DVDオーディオ	
音楽用CD	
ビデオCD	
スーパーオーディオCD	

上記以外のディスクを再生すると、大音量のノイズを発生してスピーカーを破損したり、聴覚を傷付ける恐れがあります。上記以外のディスクは絶対に再生しないでください。

- 故障などを防ぐため、8cmアダプター(CD用)は使わないでください。
- DVD-ROM、CD-ROMなどは再生できません。
- コピーコントロールCDなど、CDの標準規格に準拠していない特殊なディスクやDualDiscは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

DVDビデオのリージョンNo.について

DVDプレーヤーとDVDビデオディスクは発売地域ごとに再生可能地域番号(リージョンNo.)が設けられており、再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョンNo.は**2**です。



DVD-R/DVD-RWについて

本機はDVDビデオフォーマットで記録されたDVD-RおよびDVD-RW、またはVR(ビデオレコーディング)フォーマットで記録されたDVD-RWを再生することができます。

- 本機はCPRM(1回だけ録画可能な映像素材に対する著作権保護技術)に対応しておりませんので、「1回だけ録画可能な映像素材」を録画した部分を再生することはできません。
- DVDレコーダーで録画/編集したディスクは、正常に再生できないことがあります。
- VRフォーマットのディスクについては一部対応できない機能があります。

CD-R/CD-RWについて

本機は音楽CDフォーマット、またはビデオCDフォーマットで記録されたCD-R/CD-RWを再生することができます。

- CDレコーダー/DVDレコーダーで作成したディスクは、忘れずにファイナライズしてください。

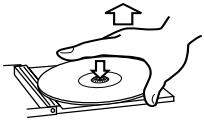
ディスクの品質、記録の状態によっては再生できないことがあります。詳しくはお手持ちの機器の説明書をお読みください。

ディスクについて

ディスクの取り扱い

- ディスクはレーベル面を上にしてセットしてください。
- ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。

取り出し方



ディスクの正しい持ち方

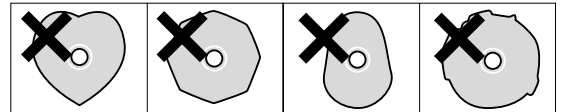


- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。ディスクの汚れは画質・音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。



- レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所には放置しないでください。
- レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。
- 再生が終了したディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や八角形など特殊形状のディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



- レーベル面に印刷するタイプのディスク(プリンタブルディスク)は使用しないでください。表面が特殊加工されているため、本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

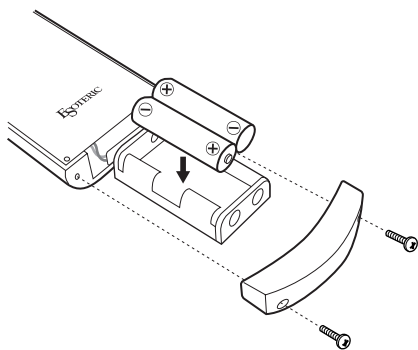
リモコンの使い方

リモコン使用上の注意

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、7メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- リモコンの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

ドライバーを使ってリモコン下部のフタを外し、電池ケースを引き出してください。⊕と⊖の向きを確認して乾電池(単3形)2本を入れたら、電池ケースを戻し、フタを閉めてください。



電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

⚠ 電池についての注意

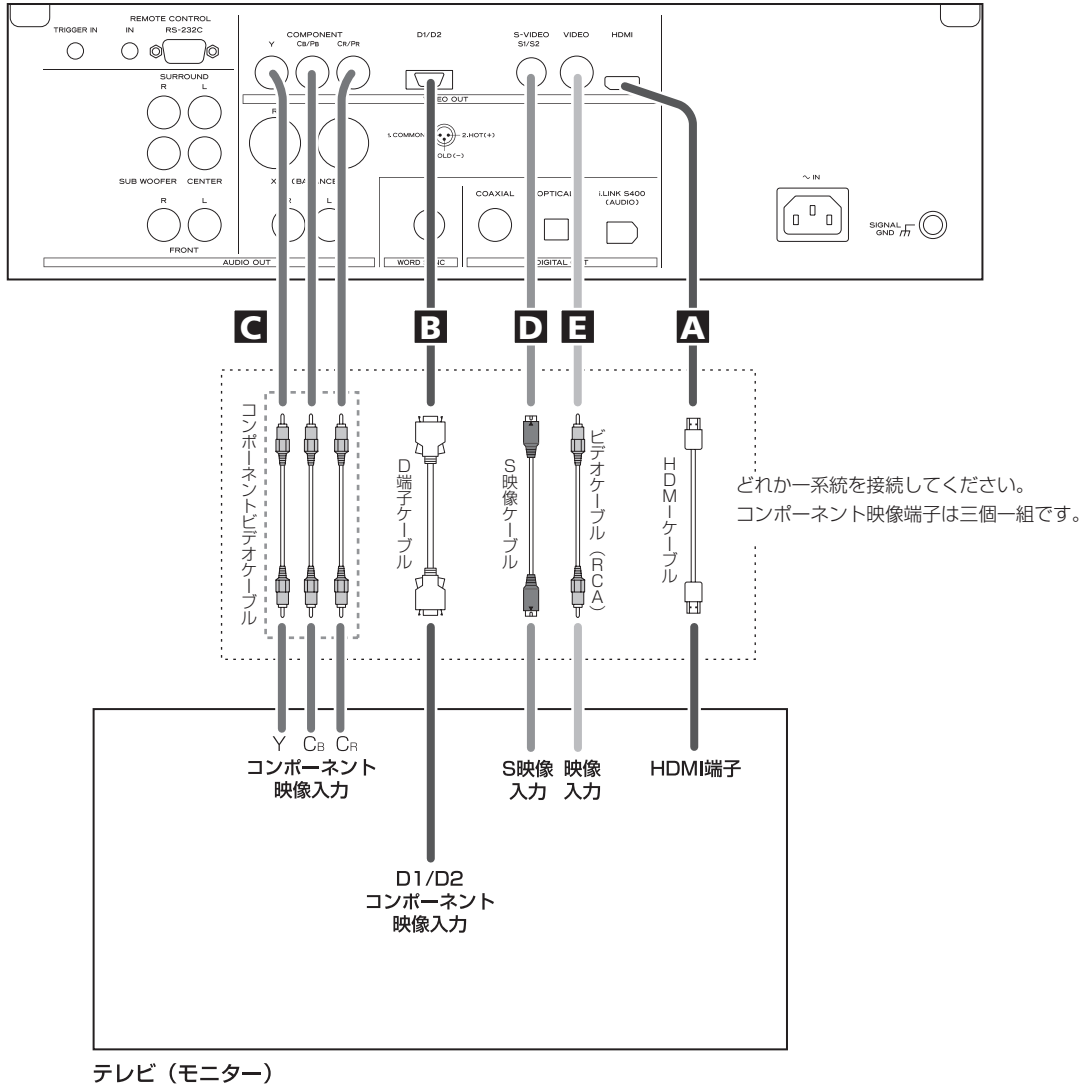
電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。

- 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

テレビとの接続

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。



- 接続したテレビに合わせて、映像の縦横比(アスペクト)を切り換えてください。(54ページ)
- コンポーネント映像出力端子またはD1/D2端子をプログレッシブ対応テレビと接続した場合は、コンポーネント出力の設定を「プログレッシブ」にすることができます。(55ページ)
- 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。そのため本機をVTR(ビデオデッキ)を通してテレビに接続したりVTRで録画して再生をすると、正常な再生映像が得られない場合があります。本機の映像出力は、VTRを通さずにテレビと直接接続してください。

A HDMI端子

1本のケーブルで映像と音声をデジタル出力することができます。

テレビ(モニター)にHDMI入力端子がある場合は、市販のHDMIケーブルを使って本機のHDMI端子と接続してください。きれいな映像を楽しめます。

HDMI映像出力フォーマット

480i (PALの場合: 576i)
480p (PALの場合: 576p)
720p
1080i
1080p

- HDMI映像出力フォーマットの切り換えについては、38～39ページをお読みください。
- 本機と接続する機器のHDMI端子の詳細については、その機器の取扱説明書をよくお読みください。
- テレビ(モニター)のHDCP対応のDVI端子と接続する場合は、HDMI-DVI変換ケーブルを使用してください。DVI端子と接続した場合、音声は出力できません。

HDMI端子から音声を出力するには

接続したHDMI機器に音声受信機能がある場合、CD、DVDビデオ、DVDオーディオの音声をHDMI端子から出力できます。

- HDMI端子から音声を出力する場合は、「デジタル出力」(42ページ)を「ON」に設定してください。
- スーパーオーディオCDの音声は出力できません。
- DVDビデオまたはDVDオーディオのサラウンド音声をお楽しみいただくためには、本機をサラウンド対応のHDMI機器と接続し、「アナログ出力」(42ページ)を「マルチch」に設定してください。
- 接続した機器に合わせて、「デジタル音声出力」(53ページ)を設定してください。

B D1/D2映像出力端子(コンポーネント)

テレビ(モニター)にD映像入力端子(D1, D2, D3, またはD4)がある場合は、市販のD端子ケーブルを使って本機のD1/D2端子と接続すると、コンポーネント映像端子と同等のきれいな映像を楽しめます。

D端子の種類と対応する信号フォーマット (NTSC/PAL)

	480i/576i (525i/625i)	480p/576p (525p/625p)
D1端子	○	×
D2端子	○	○
D3端子	○	○
D4端子	○	○

()内は走査線数で数えたときの別称です。

i : インターレース(飛び越し走査)

p : プログレッシブ(順次走査)

C コンポーネント映像出力端子

テレビ(モニター)にコンポーネント映像入力端子(COMPONENT VIDEO IN)がある場合は、市販のコンポーネントビデオケーブルを使って本機のコンポーネント映像出力端子(COMPONENT VIDEO OUT)と接続してください。きれいな映像を楽しめます。

- ハイビジョン専用のコンポーネント(Y/Pb/Pr)映像入力端子と接続することはできません。

D S映像出力端子

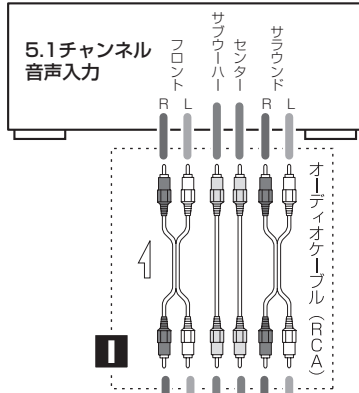
HDMI端子、コンポーネント映像入力端子、D端子がないテレビ(モニター)で、S映像入力端子(S-VIDEO IN)がある場合は、市販のS映像ケーブルを使って本機のS映像出力端子(S-VIDEO OUT)と接続してください。

E 映像出力端子

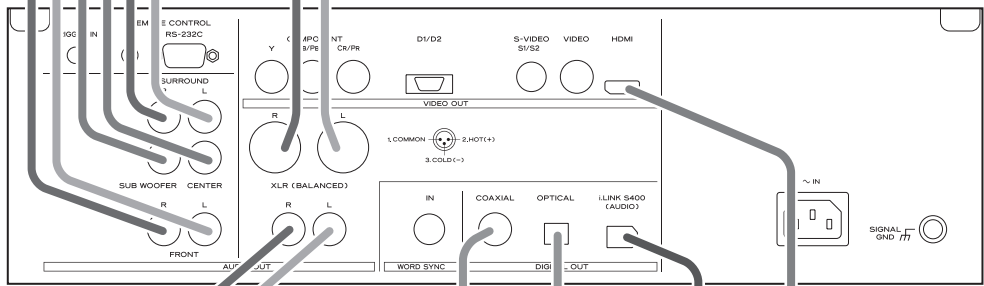
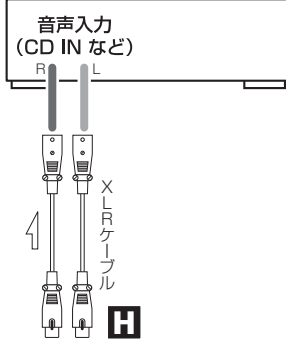
テレビ(モニター)に映像入力端子(VIDEO IN)しかない場合は、市販のビデオケーブル(RCA)を使って本機の映像出力端子(VIDEO OUT)と接続してください。

アンプとの接続

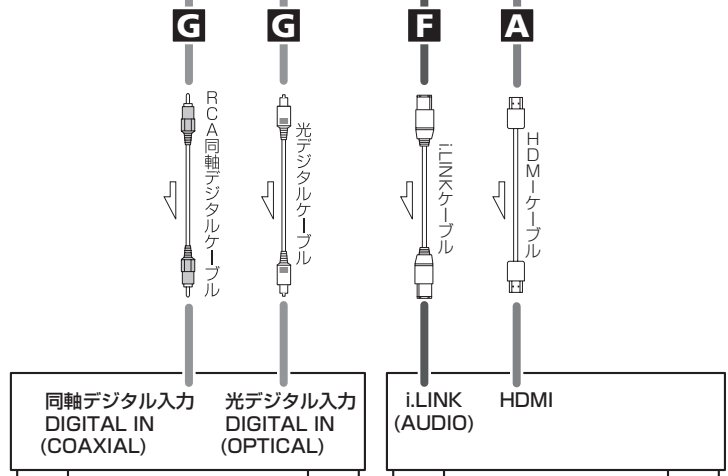
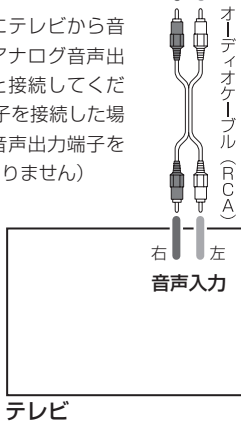
AVサラウンドアンプ



ステレオアンプ



アンプを使わずにテレビから音を出す場合は、アナログ音声出力端子をテレビと接続してください。(HDMI端子を接続した場合は、アナログ音声出力端子を接続する必要はありません)



デコーダー内蔵アンプ
またはデジタル録音機器
(CDレコーダー、MDデッキなど)

アンプ

F i.LINK (AUDIO) 端子

DVD/CD/ビデオCDのデジタル音声だけでなく、スーパーオーディオCDとDVDオーディオのサラウンド音声もデジタル出力することができます。

市販のS400対応の6ピンのi.LINKケーブル(IEEE1394ケーブル)を使って、アンプ(AZ-1など)またはD/Aコンバーター(D-01など)のi.LINK(AUDIO)端子(IEEE1394端子)と接続してください。

i.LINK(AUDIO)端子を使う場合は、「デジタル出力」(42ページ)を「ON」にし、信号の出力方法を設定してください。(37ページ)

G デジタル音声出力端子

DVD/CD/ビデオCDのデジタル音声を出力します。本機のデジタル出力端子(COAXIALまたはOPTICAL)を、デコーダー内蔵アンプやデジタル録音機器(CDレコーダーなど)のデジタル入力端子と接続します。

接続には市販のケーブルをお使いください。

COAXIAL : RCA同軸デジタルケーブル
OPTICAL : 光デジタルケーブル(TOS)

- 本機の光デジタル端子はシャッター式です。接続するときは、端子の向きを合わせてしっかりと差し込んでください。誤った向きで無理に差し込むと、端子が変形してシャッターが閉まらなくなることがありますのでご注意ください。
- デジタル音声出力端子を使う場合は、「デジタル出力」を「ON」に設定してください。(42ページ)
- この端子からは、スーパーオーディオCDのデジタル音声およびDVDオーディオのサラウンドのデジタル音声は出力できません。DVDオーディオの192kHz/176.4kHz音声は、96kHz/88.2kHzまたは48kHz/44.1kHzに変換して出力されます。ただし、ディスクによっては、デジタル音声を出力しないことがあります。

H 2chアナログ音声出力端子

2チャンネル(ステレオ)のアナログ音声を出力します。アンプにXLRの音声入力端子がある場合は、市販のバランス型XLRケーブルを使って、本機のR端子とアンプのR端子、本機のL端子とアンプのL端子をそれぞれ接続してください。

アンプにXLRの音声入力端子がない場合は、市販のRCAオーディオケーブルを使って、本機のR端子とアンプのR端子、本機のL端子とアンプのL端子をそれぞれ接続してください。

- 「アナログ出力」の設定を「マルチch」にした場合、2chアナログ音声出力端子からは5.1チャンネルのうちのフロントL/Rの音声だけを出力します。2chアナログ音声出力端子を使う場合、通常は「アナログ出力」の設定を「2ch」にしてください。(42ページ)

I 5.1chアナログ音声出力端子

5.1チャンネルのアナログ音声を出力します。

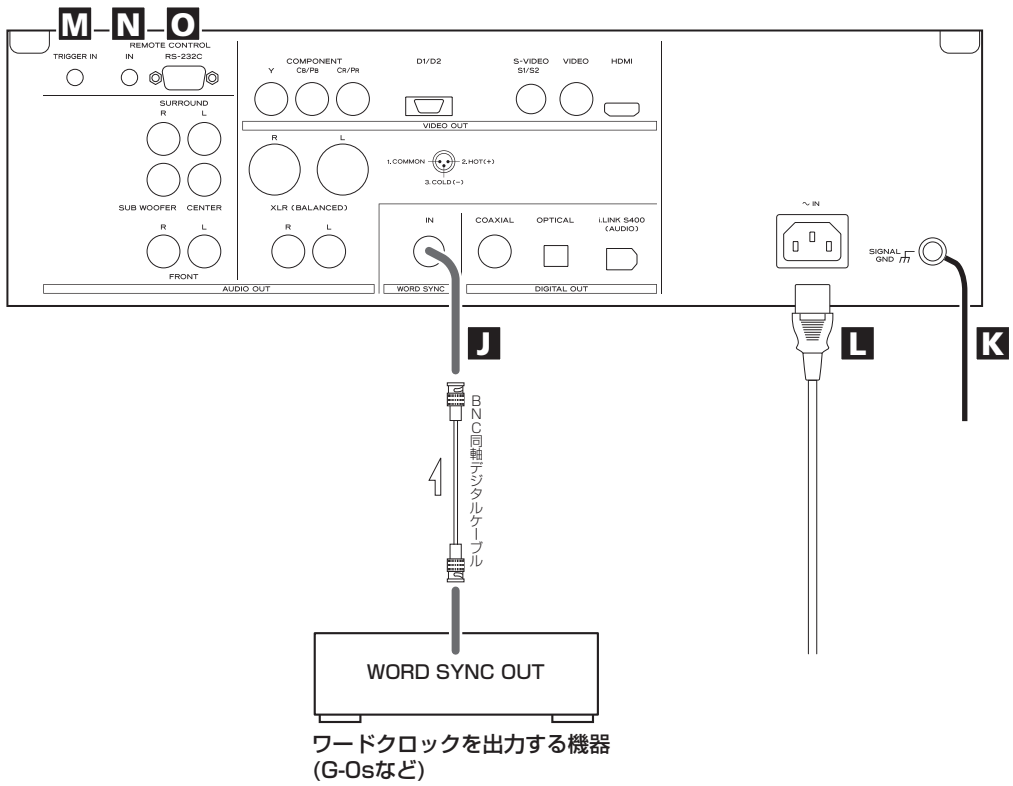
市販のRCAオーディオケーブルを使って、AVサラウンドアンプと接続してください。

- 5.1chアナログ音声出力端子を使うときは、「アナログ出力」の設定を「マルチch」にしてください。(42ページ)
- 最適なサラウンド効果を得るためには、6本のスピーカー(フロント×2、センター×1、リア×2、サブウーハー×1)が必要です。

エソテリックでは、リファレンスとして**エソテリック MEXCEL ストレスフリー7N**ケーブルを使用しています。エソテリック **MEXCEL**ケーブルシリーズは、以下のものが発売されています。

RCAオーディオケーブル	XLRデジタルケーブル
XLRオーディオケーブル	BNCデジタルケーブル
RCAデジタルケーブル	スピーカーケーブル

その他の接続



J ワードシンク端子

同期信号を入力します。
市販のBNC同軸ケーブルを使って、マスタークロックジェネレーターやD/AコンバーターのWORD SYNC OUT端子と接続してください。

K アース端子[GND]

市販のビニール電線でアンプとアース接続すると、音質が良くなることがあります。

- 安全アースではありません。

L 電源コード

電源コード接続ソケットに付属の電源コードを差し込んでください。全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

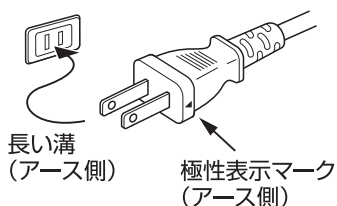
- 本機の電源コード接続ソケットは3ピン仕様になっていますが、アースピンはシャーシには接続されていません。

⚠ エソテリック純正の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

電源の極性管理について

本機はより良い音質を得るために、電源の極性管理をしています。電源コードのプラグ部分に、極性管理用の極性表示マーク(▲)が付いています。本機では、印の付いている方がアース側です。

一般的に、家庭用電源コンセントの差し込み口は、長い溝の方がアース側です。極性表示マークが付いている側の差し込み刃をコンセントの長い溝の方に差し込んでください。なお、極性管理されていない電源コンセントに接続するときは、電源プラグを逆に差し込んでみるなどの方法で音質の良い方を選択してください。



M トリガー[TRIGGER]

外部から電源をコントロールするための端子です。
この端子を使わないときはケーブルを抜いてください。

N リモコン入力[REMOTE CONTROL IN]

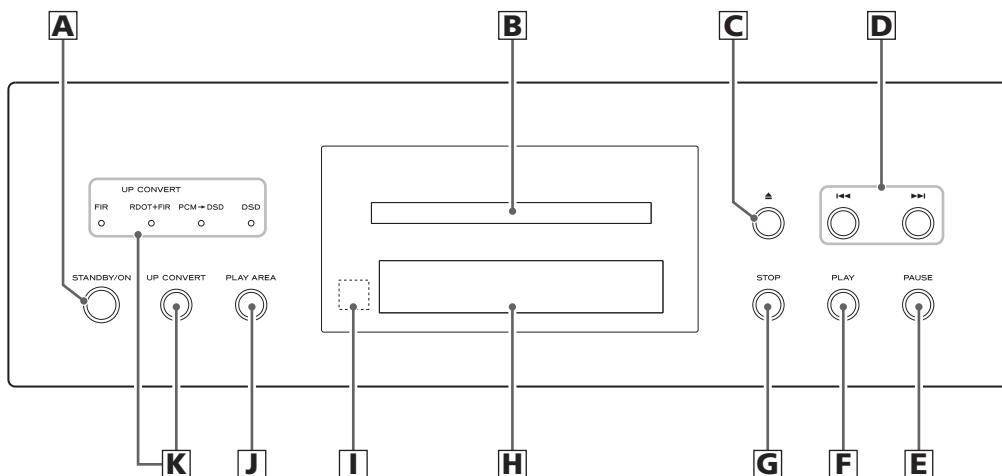
専門業者(カスタムインストーラー)用のコントロール端子です。

この端子を使わないときはケーブルを抜いてください。

O リモコン入力[RS-232C]

専門業者(カスタムインストーラー)用のコントロール端子です。

各部の名称 (本体)



A スタンバイ/オンボタン [STANDBY/ON]

電源のオンとスタンバイを切り換えます。
電源がオンのときはボタンの周囲が青く光り、スタンバイ状態のときは赤く光ります。

B ディスクトレイ

C オープン/クローズボタン [▲]

ディスクトレイを開閉します。

D スキップボタン [◀◀/▶▶]

前または後ろにスキップします。再生中に1秒以上押し続けると再生スピードが変わります。
(25、26ページ)

E 一時停止ボタン [⏸]

再生を一時停止します。DVDビデオ/ビデオCDの場合は静止画になります。(24ページ)

F 再生ボタン [▶]

ディスクを再生します。(22ページ)

G 停止ボタン [■]

再生を停止します。(24ページ)

H ディスプレー

I リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。(11ページ)

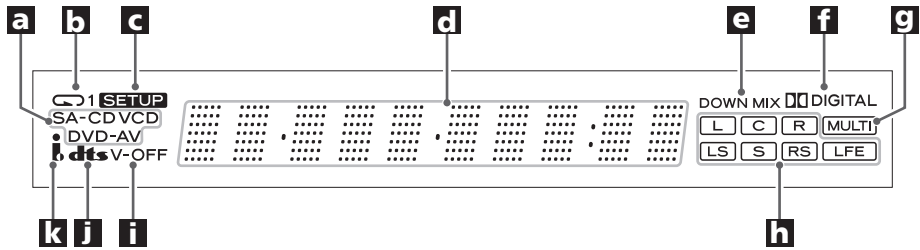
J 再生エリアボタン [PLAY AREA]

停止中に押すと、DVDオーディオとスーパーオーディオCDの再生エリアを切り換えます。(25ページ)
2秒以上押すと設定モードになり、本体のディスプレイに設定が表示されます。(35ページ)

K アップコンバートボタン [UP CONVERT]

デジタルフィルターを切り換えて、サンプリング周波数をアップコンバートします。
選択したフィルターのインジケーターが点灯します。
(31ページ)

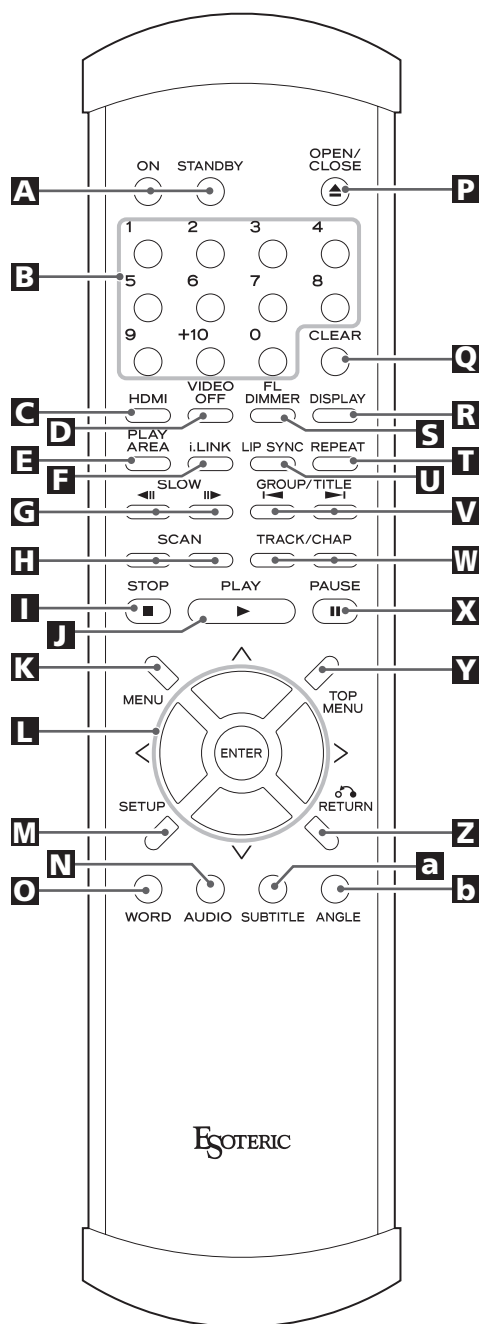
各部の名称 (ディスプレイ)



- a** ディスクインジケータ
セットされているディスクの種類を表示します。
- b** リピートインジケータ
リピート再生中に点灯します。
- c** セットアップインジケータ
設定画面の表示中に点灯します。
- d** メッセージ表示部
再生時間など各種メッセージが表示されます。
- e** ダウンミックスインジケータ
サラウンドのアナログ音声をダウンミックスして出力しているときに点灯します。
- f** ドルビーデジタルインジケータ
ドルビーデジタル音声の再生中に点灯します。
- g** マルチチャンネルインジケータ
アナログ音声出力の設定が「マルチch」のときに点灯します。

- h** チャンネルインジケータ
再生中の音声チャンネルが点灯します。
- i** ビデオオフインジケータ
映像出力をオフにしたときに点灯します。
- j** DTSインジケータ
DTS音声の再生中に点灯します。
- k** i.LINKインジケータ
i.LINK出力がオンのときに点灯します。

各部の名称 (リモコン)



A スタンバイ/オンボタン [STANDBY/ON]

ONボタンを押すとオンに、STANDBYボタンを押すとスタンバイに切り換わります。

ONボタンを押すと、リモコンの白いボタンが数秒間点灯します。

B 数字キー

選曲や、視聴制限のための暗証番号の入力などに使います。

C HDMIボタン

HDMI出力のオン/オフを切り換えます。(38ページ)

D ビデオ オフボタン [VIDEO OFF]

映像出力のオン/オフを切り換えます。(30ページ)

E 再生エリアボタン [PLAY AREA]

停止中に押すと、DVDオーディオとスーパーオーディオCDの再生エリアを切り換えます。(25ページ)

F i.LINKボタン

i.LINK出力の設定を切り換えます。(37ページ)

G スローボタン [SLOW]

スロー再生に使用します。(28ページ)

H スキャンボタン [SCAN]

早送り/早戻しに使用します。(26ページ)

I 停止ボタン(■)

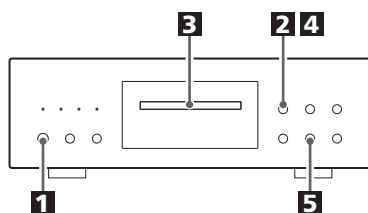
再生を停止します。(24ページ)

J 再生ボタン(▶)

ディスクを再生します。(22ページ)

- K** **メニューボタン [MENU]**
メニュー画面付のDVDがセットされているときにこのボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。(23ページ)
- L** **方向ボタン(上下左右)とENTERボタン**
メニュー画面や設定画面で使います。方向ボタンで項目を選択して、ENTERボタンで確定します。(23、40ページ)
- M** **セットアップボタン [SETUP]**
設定画面を表示します。(40ページ)
- N** **オーディオボタン [AUDIO]**
再生中にこのボタンを押すと、音声が変わります。(29ページ)
- O** **ワードボタン [WORD]**
ワードシンクのオン/オフを切り換えます。オンにすると、外部入力クロックをマスターとしてシンク動作します。(31ページ)
- P** **オープン/クローズボタン(△)**
ディスクトレイを開閉します。(22、24ページ)
- Q** **クリアボタン [CLEAR]**
数字キーを押し間違えたときなどに使います。
- R** **ディスプレイボタン [DISPLAY]**
再生中または停止中にこのボタンを押すと、画面とディスプレイの表示が切り換わります。(32ページ)
- S** **FLディマーボタン [FL DIMMER]**
本体のディスプレイの明るさを調節できます。(32ページ)
- T** **リピートボタン [REPEAT]**
ディスクのリピート再生に使用します。(27ページ)
- U** **リップシンクボタン [LIP SYNC]**
DVDの映像と音声のずれを調節する時に使います。(30ページ)
- V** **グループ/タイトルボタン [GROUP/TITLE]**
前または後ろのグループ/タイトルにスキップします。(25ページ)
- W** **スキップボタン(◀◀/▶▶)**
前または後ろのトラック/チャプターにスキップします。(25ページ)
- X** **一時停止ボタン(⏸)**
再生を一時停止します。DVDビデオ/ビデオCDの場合は静止画になります。(24ページ)
- Y** **トップメニューボタン [TOP MENU]**
メニュー画面付のDVDがセットされているときにこのボタンを押すと、最上層のメニュー画面が表示されます。(23ページ)
- Z** **リターンボタン [RETURN]**
設定画面やメニュー画面が表示されているときにこのボタンを押すと、一つ前の項目に戻ります。ビデオCDの再生中は、メニュー画面に戻ります。(23ページ)
- a** **サブタイトルボタン [SUBTITLE]**
DVDビデオの再生中にこのボタンを押すと、字幕が切り換わります。(29ページ)
- b** **アングルボタン [ANGLE]**
マルチアングルのDVDビデオの再生中に、アングルを切り換えます。(28ページ)

再生

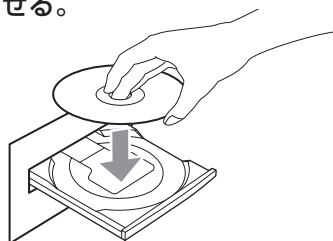
**1** 本体の電源をオンにする。

STANDBY/ONボタンを押すたびに、電源のオン/スタンバイが切り換わります。

電源がオンのときはボタンの周囲が青く光り、スタンバイ状態のときは赤く光ります。

2 OPEN/CLOSEボタン(▲)を押す。

ディスクトレイが手前に出ます。

**3** ディスクのレーベル面を上にしてトレイの中央にのせる。

- 両面に記録されたディスクのときは、見たい面を下にしてください。
- ディスクが中央のガイドから外れた状態でトレイを閉じると、ディスクが中で引っかかりトレイが開かなくなることがありますので、ディスクは必ずトレイの中央のガイドにしっかり合わせて置いてください。

4 OPEN/CLOSEボタン(▲)を押す。

ディスクトレイが閉まります。指を挟まないようにご注意ください。

ディスクによっては、1曲目から自動的に再生が始まります。

- ディスクの読み込みには多少時間がかかります。

5 PLAYボタン(▶)を押す。

再生が始まります。

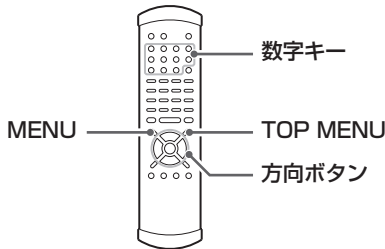


ディスクによっては、メニュー(選択画面)が表示されます。メニューが表示された場合は次のページをお読みください。

メニュー画面が表示されたとき

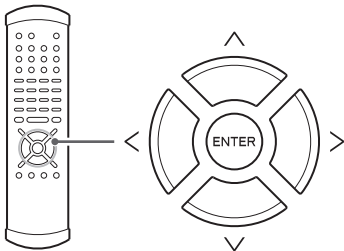
メニュー画面付きDVDやプレイバックコントロール(PBC)付きビデオCDでは、メニュー画面が表示されません。

- メニュー画面の形式・操作方法はディスクによって異なります。



例：メニュー画面付きDVD

リモコンの方向ボタンで見たい項目を選んでENTERボタンを押してください。ディスクによっては、数字キーで選択できることもあります。(見たい項目の数字キーを押してから、ENTERボタンを押してください)

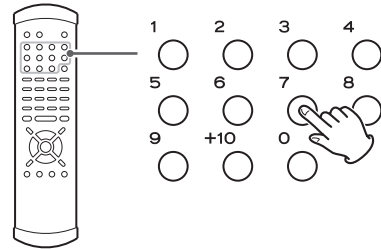


メニュー画面に戻るには

再生中にメニュー画面を表示したいときは、MENUボタンを押してください。トップメニュー(ディスクの一番上の階層のメニュー)に戻りたいときは、TOP MENUボタンを押してください。(ディスクによって異なります)

- ディスクによっては、再生中にMENUボタンまたはTOP MENUメニューボタンを押すと最初のチャプターに戻って再生を始めることがあります。
- VRフォーマットで記録されたDVD-RWディスクについては一部対応できない機能があります。

例：プレイバックコントロール(PBC)付きビデオCD 見たい項目の数字キーを押してください。



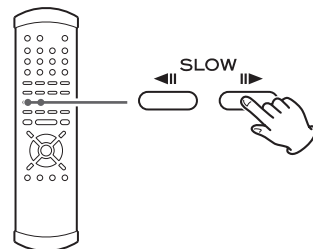
- ビデオCDでメニューが複数のページにまたがっているときは、スキップボタン(◀◀ / ▶▶)で改ページできます。
- ビデオCDのPBC再生中にRETURNボタンを押すとメニュー画面に戻ります。
- PBC再生中は、以下のボタンは機能しません。
DISPLAY、REPEAT

PBCを使わずに再生するには

停止中に、スキップボタン(◀◀ / ▶▶)または数字キーを使って曲番を選んでからPLAYボタンを押して再生すると、PBCがオフになります。

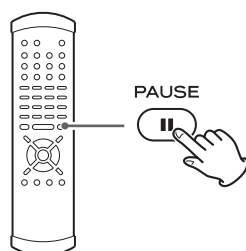
DVDオーディオの静止画の切り換え

DVDオーディオの中には、静止画が入っているものがあります。静止画の種類によっては、SLOWボタン(◀|| / ||▶)で静止画を前または逆方向に送ることができます。



再生

一時停止するには (画像を静止させるには)

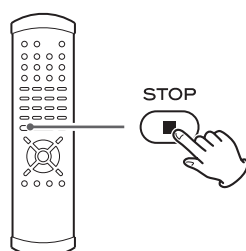


再生中にPAUSEボタン(⏸)を押すと再生が一時停止します。DVDビデオ/ビデオCDの場合は静止画になります。

PLAYボタン(▶)またはPAUSEボタン(⏸)を押すと、再び再生が始まります。

- 静止画がブレる場合は、「スチルモード」の設定を「フィールド」にしてみてください。(55ページ)
- DVDオーディオの静止画切り換えについては、23ページをお読みください。

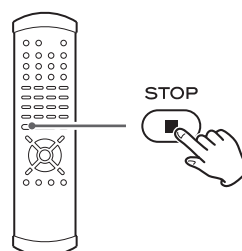
再生をやめるには



STOPボタン(■)を押すと再生が停止します。

- DVDビデオ、またはビデオCDの再生中にSTOPボタン(■)を押すと、リジューム状態になります。もう一度STOPボタン(■)を押すと完全に停止します。

リジューム機能



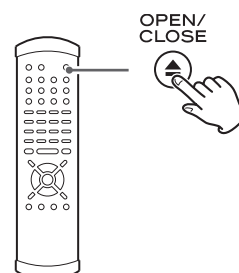
DVDビデオ、またはビデオCDの再生中にSTOPボタン(■)を押すと、再生が停止してディスプレイに「RESUME」が表示されます。

PLAYボタン(▶)を押すと、続きから再生します。

- 以下のボタンを押すと、リジューム機能は解除されます。

停止中にSTOPボタンを押した場合
OPEN/CLOSEボタン(▲)

ディスクトレイを開閉するには

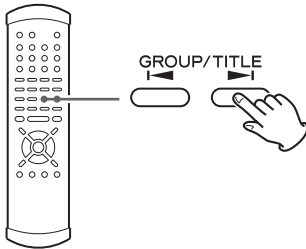


OPEN/CLOSEボタン(▲)を押すとトレイが開き、もう一度押すと閉まります。

- ディスクの再生中にOPEN/CLOSEボタンを押した場合は、トレイが開くのに数秒かかります。

見たい場面から再生するには

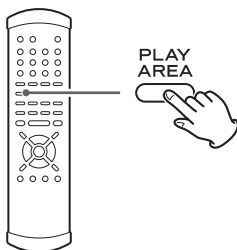
グループ/タイトルを切り換えるには



DVDは、リモコンのGROUP/TITLEボタン(◀▶)を押して、タイトル(グループ)を選ぶことができます。再生中に押すと、選んだタイトル(グループ)に切り換わって再生を始めます。停止中または一時停止中に押すと、選んだタイトルまたはグループの頭で一時停止状態になります。

- ディスクによっては、停止中または一時停止中に押すと、選んだタイトルまたはグループの再生を始めます。

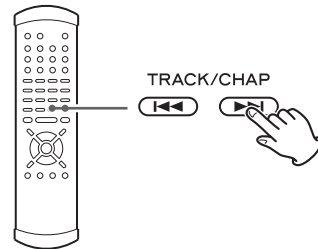
再生エリアを切り換えるには



DVDオーディオディスクには、DVDビデオディスクとして読み込むことが可能なものがあります。また、スーパーオーディオCDには、2チャンネルとマルチなど複数のエリアを持つものや、スーパーオーディオCDとCDの2層構造になっているものがあります。停止中にPLAY AREAボタンを押すと、DVDオーディオ、またはスーパーオーディオCDの再生エリアを切り換えることができます。

- DVDオーディオディスクを、DVDオーディオディスクとして読み込んだ場合とDVDビデオディスクとして読み込んだ場合では、再生できる内容が変わることがあります。

スキップするには

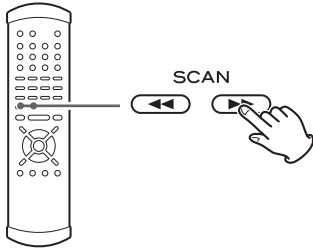


再生中に本体またはリモコンの◀▶ボタンを押すと、前または後ろのチャプター(トラック)にスキップして再生を始めます。

- ◀▶ ボタンを1回押すと、チャプターまたはトラックの頭に戻ります。それより前に戻りたいときは、◀▶ ボタンを続けて押してください。ただし、チャプターまたはトラックの最初の1秒以内に◀▶ ボタンを押した場合は、前のチャプターまたはトラックにスキップします。
- 停止中または一時停止中に◀▶ / ▶▶ ボタンを押すと、選んだチャプターまたはトラックの頭で一時停止状態になります。ビデオCDのPBC再生中は、◀▶ ボタンを押してもスキップしません。また、PBC再生中はリジューム状態で▶▶ ボタンを押してもスキップしません。一時停止中に▶▶ ボタンを押すと、選んだチャプターまたはトラックの再生を始めます。

見たい場面から再生するには

早送り/早戻しするには(スキャン)



再生中にリモコンの◀◀/▶▶ ボタンを押すと早送り/早戻しができます。見たい部分が見つかったら、PLAYボタン(▶)を押してください。

◀◀/▶▶ ボタンをくり返し押しすると、早送り/早戻しの速度が3段階に変わります。

▶▶ : 早送り(1)→早送り(2)→早送り(3)
→PLAY (通常の再生)

◀◀ : 早戻し(1)→早戻し(2)→早戻し(3)
→PLAY (通常の再生)

- 画面に表示される数字が大きいほど早くなります。
- 本体の場合は、再生中にスキップボタン(◀◀/▶▶)を1秒以上押しすると早送り/早戻しの速度が変わります。
- DVDビデオおよびビデオCDは、早送り/早戻し中の音声は聞こえません。

DVDオーディオ/ビデオCD(PBC再生)の場合

トラックの終わりまで行くと、早送りはキャンセルされて、次のトラックから通常の再生を始めます。最後のグループの最後のトラックの終わりまで行った場合は、再生を停止します。

トラックの頭まで行くと、早送りはキャンセルされて、そのトラックから通常の再生を始めます。

ただし、メニュー画面に移った場合は、早送り/早戻しは動きません。

ビデオCD(PBCオフ)/CD/スーパーオーディオCDの場合

最初のトラックの頭まで行くと、早送りはキャンセルされて、最初のトラックから通常の再生を始めます。

最後のトラックの終わりまで行くと、早送りはキャンセルされて、再生は停止します。

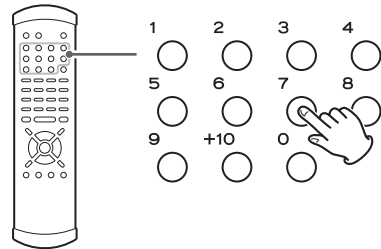
DVDビデオの場合

最初のチャプターの頭まで行くと、早送りはキャンセルされて、通常の再生を始めます。

最後のチャプターの終わりまで行くと、早送りはキャンセルされて、次のタイトルから通常の再生を始めます。最後のタイトルの最後のチャプターの終わりまで行った場合は、再生を停止します。

ただし、メニュー画面に移った場合は、早送り/早戻しは動きません。

数字キーで選んで再生するには



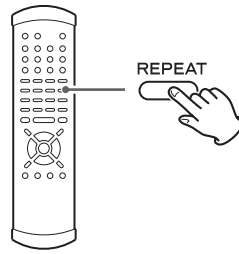
DVDの場合

再生中または停止中に数字キーを押すと、そのチャプター(またはトラック)から再生を始めます。停止中の場合は、最初のタイトル(またはグループ)のチャプター(またはトラック)から選ばれます。

ビデオCD/CD/スーパーオーディオCDの場合

再生中または停止中に数字キーを押すと、そのトラックから再生を始めます。

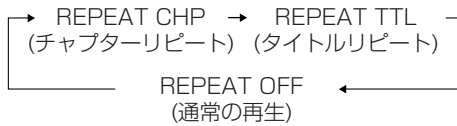
リピート再生



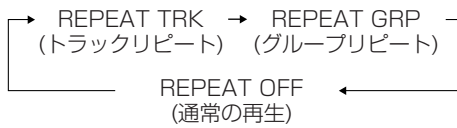
再生中にREPEATボタンを押すと、リピートモードが変わります。

ディスプレイの表示

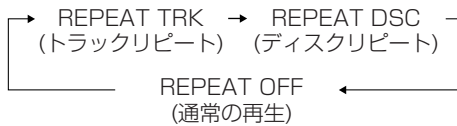
DVDビデオ



DVDオーディオ



CD/ビデオCD(PBCオフ)/スーパーオーディオCD



- 再生を停止するとリピート再生は解除されます。
- ディスクによっては、リピート再生できないことがあります。その場合は禁止マークが表示されます。
- ビデオCDのPBC再生中はリピート再生できません。

チャプターリピート/トラックリピート

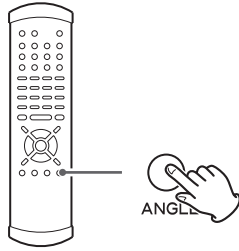
再生中のチャプターまたはトラックがくり返し再生されます。リピート再生中に他のチャプターを選ぶと、そのチャプターがくり返し再生されます。

タイトルリピート/グループリピート/ディスクリピート

再生中のタイトル/グループ/ディスクがくり返し再生されます。

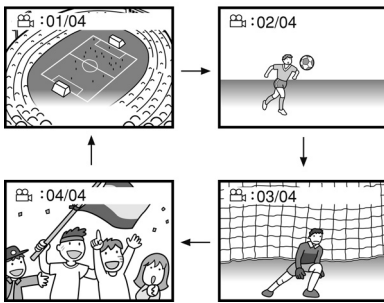
- DVDでは、再生中のタイトル(グループ)をくり返し再生します。
- ビデオCD、CD、スーパーオーディオCDの場合は、全てのトラックをくり返し再生します。

マルチアングル



見たい方向からの映像を選ぶ

複数の方向(アングル)から映された映像が記録されたDVDでは、アングルを選ぶことができます。

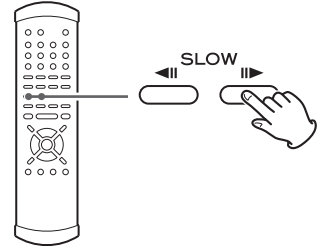


複数のアングルが記録されているディスクは、ディスクのジャケットに♫マークが付いています(マークの中の数字は最大収録アングル数)。

本機でマルチアングルが記録されている箇所を再生すると、画面にアングルインジケータ(♫とアングル数)が表示されます。アングルが記録されている箇所の再生中にアングルボタンを押して、アングルを切り換えてください。

- 一時停止中にアングルを切り換えることはできません。
- 画面のアングルインジケータを消したいときは、56ページをご覧ください。
画面のアングルインジケータを消しても、ディスプレイには♫マークが点灯します。
- ディスクによってはアングルを切り換えられないことがあります。その場合は禁止マークが表示されます。

スロー再生/コマ送り



スロー再生

DVDまたはビデオCDの再生中にSLOWボタン(◀|||▶)を押すと、前または逆方向にスロー再生します。SLOWボタン(◀|||▶)を押すたびに、スロー再生の速さが変わります。

PLAYボタン(▶)を押すと通常の再生に戻ります。

▶ : ▶ 1/8 → ▶ 1/4 → ▶ 1/2
→PLAY (通常の再生)

◀ : ◀ 1/20 → ◀ 1/16 → ◀ 1/12
→PLAY (通常の再生)

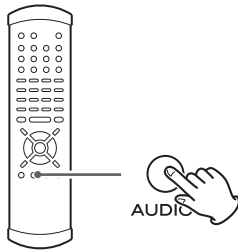
コマ送り

一時停止中にSLOWボタン(◀|||▶)を押すたびに、画像が前または逆方向にコマ送りされます。

PLAYボタン(▶)を押すと通常の再生に戻ります。

- コマ送り/スロー再生中の音声は聞こえません。
- ビデオCDの場合は、逆方向にコマ送り/スロー再生することはできません。
- ディスクによっては、スロー再生できないことがあります。その場合は禁止マークが表示されます。
- 静止画がブレる場合は、「スチルモード」の設定を「フィールド」にしてみてください。(55ページ)

音声を切り換えるには



DVDビデオディスクには、ドルビーデジタルやPCMなどの音声がいろいろな言語で記録されているものがあります。

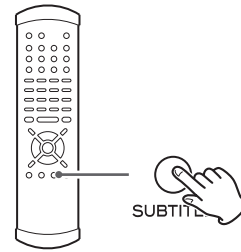
DVDオーディオディスクには、2チャンネルとサラウンドの音声などが同時に記録されているものがあります。

ビデオCDの場合は、L(左)、R(右)、LR(ステレオ)を切り換えることができます。

再生中にAUDIOボタンを押すたびに、音声が切り換わります。お好みの音声を選んでお楽しみください。

- ディスクによっては、メニュー画面を使わないと音声を切り換えられないことがあります。
- ディスクによっては音声を切り換えられないものがあります。その場合は禁止マークが表示されます。
- 音声が1つしか記録されていないDVDは音声を切り換えることはできません。
- 音声を切り換えたときに画像が一瞬静止することがあります。
- スーパーオーディオCD、CDの音声を切り換えることはできません。
- DVDオーディオディスクの音声がグループによって分けられている場合は、グループを切り換えてください。(25ページ)

DVDの字幕を選ぶには



複数の字幕言語が記録されたDVDビデオでは、字幕言語を選ぶことができます。

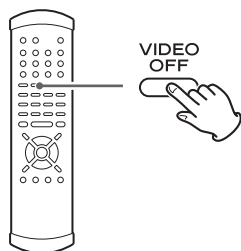
再生中にSUBTITLEボタンを押すと、字幕言語が切り換わります。お好みの言語が表示されるまで、字幕ボタンをくり返し押してください。

字幕を消したい場合は

SUBTITLEボタンをくり返し押してオフを選んでください。ただしディスクによっては、字幕を消せないことがあります。

- 字幕言語を切り換えた直後は字幕が表示されないことがあります。数秒間お待ちください。
- 字幕言語が記録されていない、または1つしか記録されていないときは字幕言語が切り替わりません。
- 「字幕表示」の設定を「OFF」にしておくと、字幕を消すことができます。(48ページ)
- ディスクによっては、メニュー画面を使わないと字幕を切り換えられないことがあります。
- ディスクによっては字幕言語が切り換えられないものがあります。その場合は禁止マークが表示されます。

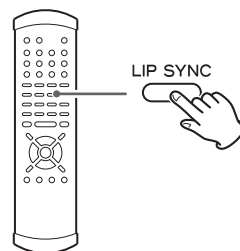
映像出力のオン/オフ



ビデオオン/オフボタンを押すたびに、映像出力のオン (VIDEO ON)/オフ (VIDEO OFF)が切り換わります。映像出力がオフのときは、V-OFFインジケータが点灯します。

スーパーオーディオCDを聴くときなど、映像が必要ないときにオフにすると、音声出力への微小ノイズを低減することにより、より良い音質でお楽しみいただけます。

リップシンク機能

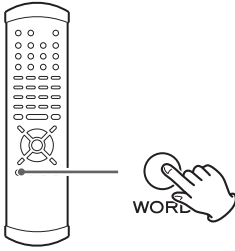


DVDの映像と音声のずれを調節することができます。

LIP SYNCボタンを押すと、リップシンクの数値が画面に表示されます。左右の方向ボタンで調節してください。基準値は0です。数字が大きいほど音声が後へずれます。一度調節すると、電源を切っても設定は変わりません。

- リップシンクを終了するには、もう一度LIP SYNCボタンを押してください。
- 画面に他の表示が出るような操作をすると、リップシンクは終了します。
- メニュー画面などで横へのカーソルの移動が必要な時は、リップシンクを終了してください。
- リップシンクは、アナログ音声出力端子、i.LINK(AUDIO)端子、HDMI端子から出力される信号に反映されます。
 - ・ i.LINK(AUDIO)端子の場合は、i.LINKボタン(37ページ)で「PCM」を選んでください。
 - ・ HDMI端子の場合は、「デジタル音声出力」(53ページ)のDolby Digital、dts、MPEG Audioを全部「PCM」に設定してください。

ワードシンク

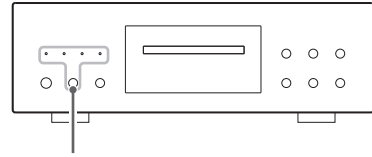


エンテリックG-0sなど外部同期信号(ワードクロック)を出力する機器と接続し、システムの同期(クロック)を一元化して再生するときや、本機を高精度な外部クロックで動作させるときに使用します。

WORDボタンを押すたびにオン(Word ON)とオフ(Word OFF)が切り換わります。

- 本機は以下のクロックに対応しており、入力された信号によって自動的に切り換わります。
44.1kHz、48kHz、88.2kHz、
96kHz、176.4kHz、192kHz
100kHz (ユニバーサルクロック)
- クロックの感知には数秒かかります。クロックを感知できない場合は「No Word!」を表示します。
- あらかじめWORD SYNC端子を接続しておいてください。

アップコンバート



UP CONVERT
FIR RDOT+FIR PCM→DSD DSD
○ ○ ○ ○

UP CONVERT



UP CONVERTボタンを押すたびに、アップコンバートのアルゴリズムが切り換わり、選択したフィルターのインジケータが点灯します。

FIR

FIR型デジタルフィルターによるアップコンバート動作を行います。

PLAY AREAボタンを使って「Wide」と「Narrow」を切り換えることができます。(35～36ページ)

RDOT+FIR

RDOTとFIRを組み合わせた動作です。RDOTはスローロールオフの特性を持ち、のびのある自然な音色が特徴です。デジタルの領域で2つのアップコンバータが直結されることで、それぞれの特徴がより引き出されます。

PCM→DSD

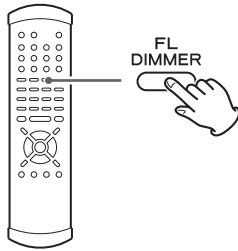
PCM信号をスーパーオーディオCDで使われているDSD信号(1bit 64fs)に変換して出力することができます。

- アップコンバートとDSD変換は以下の端子にのみ有効です。
2chアナログ音声出力端子(XLR)
2chアナログ音声出力端子(RCA)
5.1chアナログ音声出力端子のフロントL/R

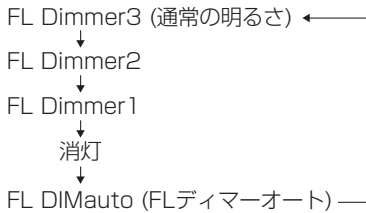
他の端子からは、アップコンバートまたはDSD変換した信号を出力することはできません。

- スーパーオーディオCDは、DSD信号(1bit 64fs)をそのまま出力しますので、アップコンバートしません。
- DSDインジケータは、スーパーオーディオCDの再生中に点灯します。

FLディマー

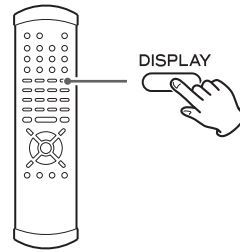


本体のディスプレイとボタン照明の明るさを調節できます。



- 「消灯」を選ぶと、ディスプレイとインジケーターが消灯します。消灯した状態で電源をオフにすると消灯は解除され、次に電源を入れたときはDimmer1の明るさになります。
- 「FL DIMAuto」を選んだ場合、再生中はディスプレイとインジケーターが消灯します。停止中はDimmer1の明るさになります。
- 消灯中またはFL DIMAuto中に再生ボタンなどを押すと、約3秒間だけディスプレイが点灯します。

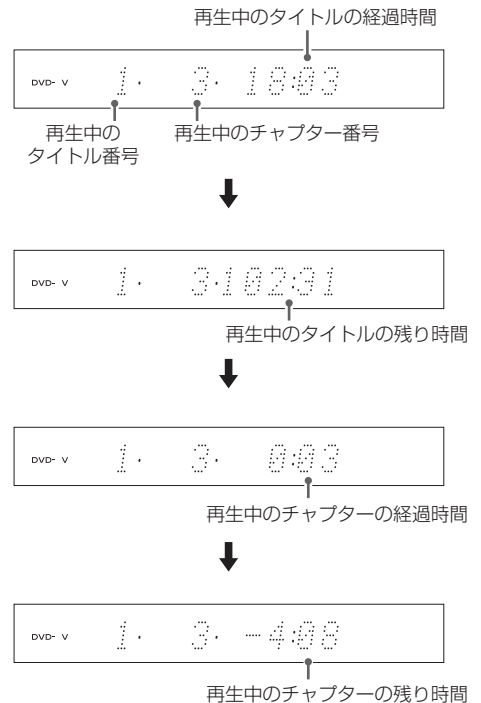
ディスクの情報を見る



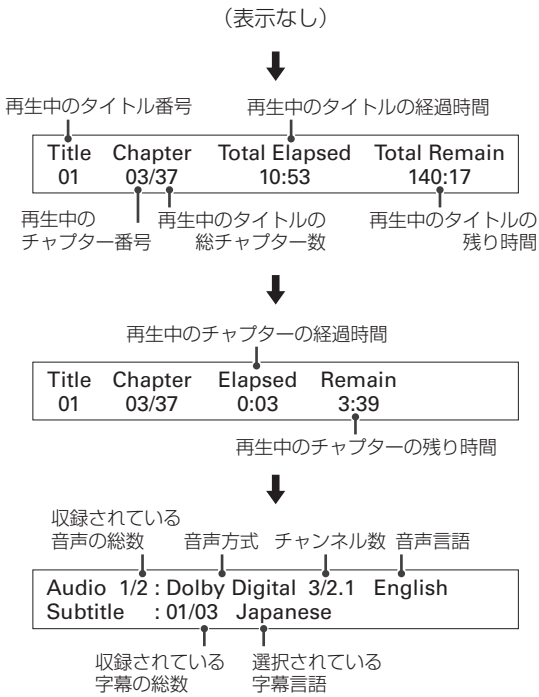
再生中にDISPLAYボタンを押すと、画面の表示が次のように切り換わります。

- 本体のディスプレイの表示も切り換わります。
- 再生が停止すると、表示は最初の状態に戻ります。
- 「画面表示」を「OFF」にすると、DISPLAYボタンを押しても画面には表示されません。(56ページ)

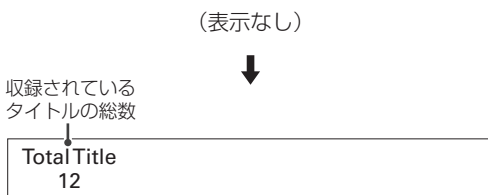
DVDビデオ (再生中：本体のディスプレイ)



DVDビデオ (再生中：画面表示)

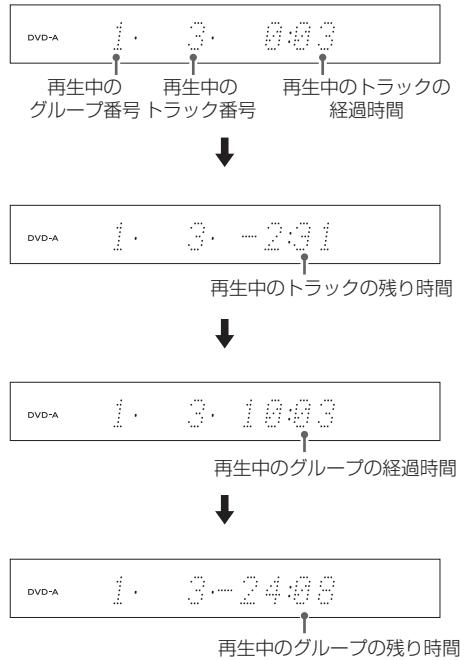


DVDビデオ (停止中：画面表示)



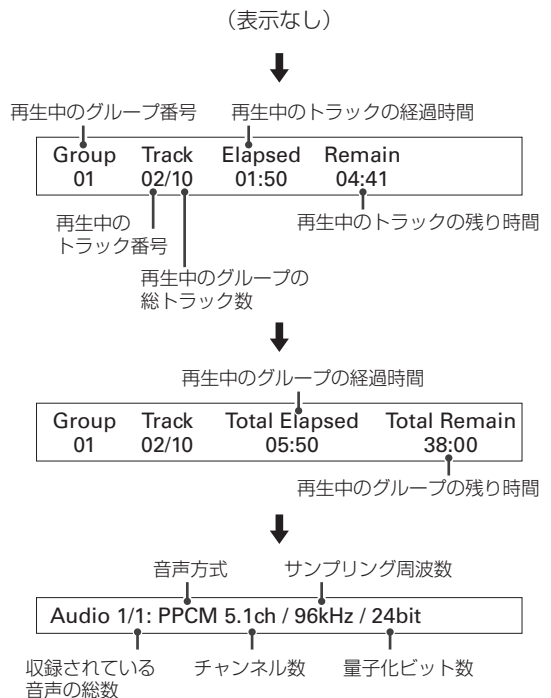
● DVDビデオの停止中は、本体のディスプレイの表示は切り換わりません。

DVDオーディオ (再生中：本体のディスプレイ)



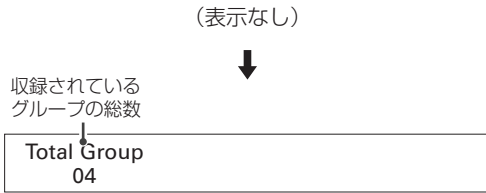
再生

DVDオーディオ (再生中：画面表示)



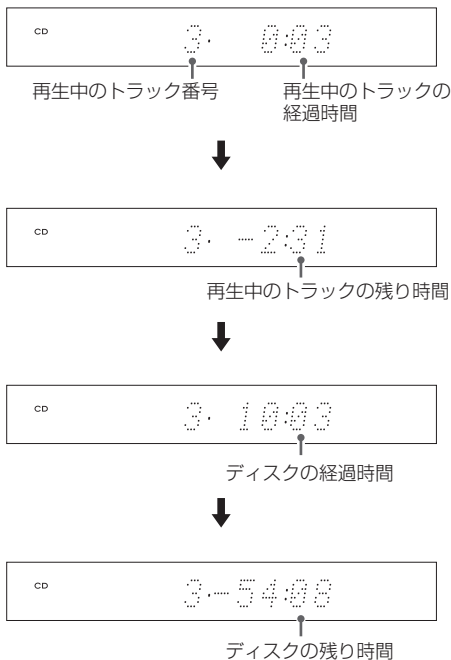
ディスクの情報を見る

DVDオーディオ (停止中：画面表示)



- DVDオーディオの停止中は、本体のディスプレイの表示は切り換わりません。

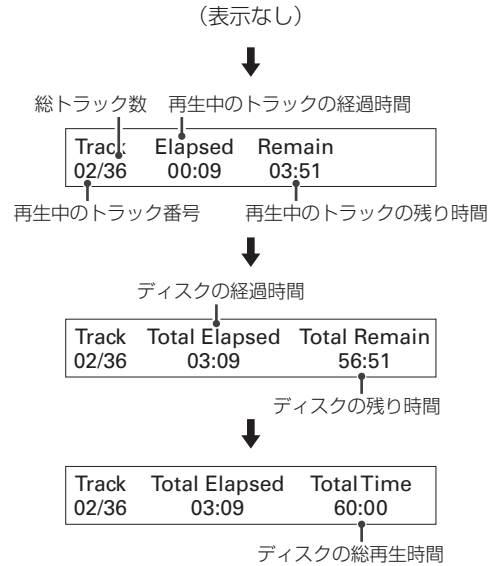
スーパーオーディオCD/CD/ビデオCD (再生中：本体のディスプレイ)



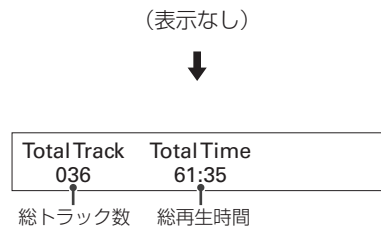
スーパーオーディオCD/CD/ビデオCD (停止中：本体のディスプレイ)



スーパーオーディオCD/CD/ビデオCD (再生中：画面表示)

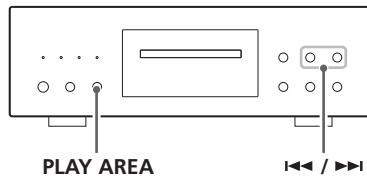


スーパーオーディオCD/CD/ビデオCD (停止中：画面表示)



- ビデオCDのPBC再生中はディスク情報を表示することはできません。

設定モード



1 停止中に本体のPLAY AREAボタンを2秒以上押し続ける。



設定モードになり、ディスプレイに「WORD>***」が表示されます。

(***の部分は設定によって異なります)

以下の操作をすると、設定モードは解除されて通常の表示に戻ります。

- ・ 10秒以上放置する。
- ・ もう一度PLAY AREAボタンを2秒押す。

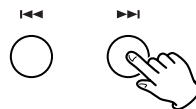
2 PLAY AREAボタンをくり返し押し、変更する項目を選ぶ。



PLAY AREAボタンを軽く押す度に、表示が変わります。

変更できる項目と設定について、詳しくは36～39ページをお読みください。

3 ◀◀ / ▶▶ ボタンを使って、設定を変更する。



4 PLAY AREAボタンを2秒以上押し続けて、設定を終了する。



または、通常の表示になるまでPLAY AREAボタンをくり返し押すか、10秒以上放置すれば通常の表示に戻ります。

- 設定を終了しないで電源を切ると、故障の原因になります。
- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

設定モード（続き）

WORD

ワードシンクのオンとオフを切り換えます。
リモコンのWORDボタンでも変更できます。詳しくは
31ページをお読みください。

i (i.LINK)

i.LINK(AUDIO)端子から出力する信号の種類を切り換
えます。「60958」、「PCM」または「OFF」を選んでく
ださい。

リモコンのi.LINKボタンでも変更できます。詳しくは
37ページをお読みください。

HDMI

HDMI映像出力フォーマットを切り換えます。
HDMI端子のある機器と接続している場合、通常は
「Auto」に設定してください。受信側が推奨するフォー
マットを自動的に選択します。

HDMI端子がない機器のHDCP対応のDVI端子と接続し
ている場合は、「Auto」に設定すると自動的に1080p
になります。

リモコンのHDMIボタンでも変更できます。詳しくは
38ページをお読みください。

H_RGB

HDMI端子から出力する映像信号を切り換えます。
「RGB」または「YCbCr」を選んでください。

YCbCrを選んで、HDMIケーブルで接続した機器が
YCbCrに対応していない場合は、自動的にRGBにな
ります。

HDMI-DVI変換ケーブルを使って接続している場合は、
RGBになります。

H_EXP

HDMIレベルを切り換えます。「EXPAND」または
「NORMAL」を選んでください。

リモコンのHDMIボタンでも変更できます。詳しくは
38～39ページをお読みください。

H_ASP

HDMI出力画面のアスペクト比を切り換えます。
「4:3」または「FULL」を選んでください。

リモコンのHDMIボタンでも変更できます。詳しくは
38～39ページをお読みください。

DF (デジタルフィルター)

FIR型デジタルフィルターの特性を切り換えます。
「Wide」または「Narrow」を選んでください。

DSD

DSDをプロセッサー処理して出力する場合は「Normal」、
プロセッサー処理せずに出力する場合は「Direct」を選
んでください。

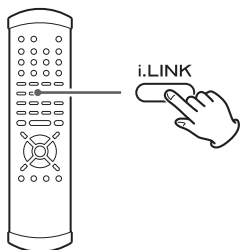
Directに設定すると、アナログの出力レベルがNormal
時と比べて3dB下がります。

(通常の表示)

設定を終了します。

i.LINK (AUDIO)端子の設定

i.LINK (AUDIO)端子をアンプまたはD/Aコンバーターと接続している場合は、i.LINK (AUDIO)端子から出力する信号の種類を選ぶ必要があります。



i.LINK ボタンを押すたびに設定が切り換わります。

i.LINK 端子を使用する場合、「60958」または「PCM」を選び、「デジタル出力」は「ON」に設定してください。

60958

DVDビデオ/ビデオCD/CDの再生時

設定画面の「デジタル音声出力」で選んだ信号(ストリームまたはPCM)が出力されます。(53ページ)

- スーパーオーディオCDの再生時はDSD信号が、DVDオーディオの再生時はリニアPCMデジタル信号が出力されます。

PCM

DVDビデオ/ビデオCD/CDの再生時

リニアPCMデジタル信号が出力されます。

ドルビーデジタル/DTS/MPEG信号はリニアPCMに変換して出力します。

本機のi.LINK端子をドルビーデジタル/DTS/MPEGのデコード機能のない機器(エソテリックのアンプAZ-1など)と接続した場合は、「PCM」に設定してください。

- AVアンプによっては、このモードの信号を入力したときに「DVD-Audio」と表示することがあります。
- スーパーオーディオCDの再生時はDSD信号が、DVDオーディオの再生時はリニアPCMデジタル信号が出力されます。

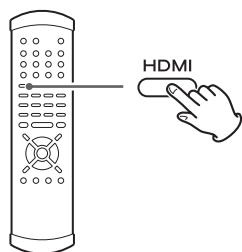
OFF

i.LINK端子から出力しません。i.LINK端子を使用しないときは、OFFにしてください。

- DVDオーディオまたはスーパーオーディオCDを再生するときは、「60958」と「PCM」のどちらに設定しても同じ信号を出力します。
- DVDオーディオまたはスーパーオーディオCDのサラウンドの音声を出力するためには、「アナログ出力」を「Multi ch」に設定してください。「2ch」にした場合は、ダウンミックスされた音声が出力されます。(42ページ)
- 音声の出力に問題がある場合は、接続したアンプやD/Aコンバーターの取扱説明書で、対応しているフォーマットをご確認ください。
- i.LINK端子で接続された受信側の機器がフローレートコントロールに対応している場合は、受信側の機器をフローレートコントロールモードで動作させることができます。
- DVDビデオやビデオCDなどの動画再生時は、映像と音声のズレを防ぐためにフローステータスは自動的にOFFになります。

HDMI端子の設定

ボタンを押すたびにHDMI端子のオン/オフが切り換わります。

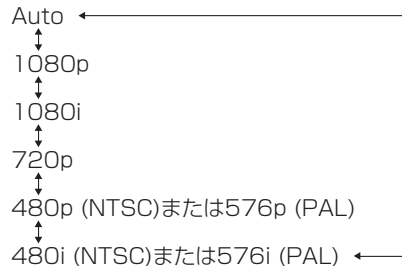
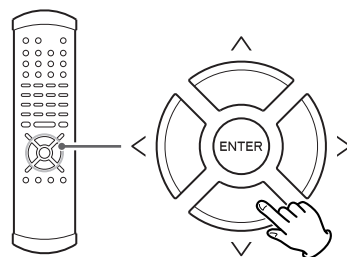


- オンにすると、コンポーネント映像出力端子からは、プログレッシブに設定していてもインターレースの信号が出力されます。
- HDMI端子がないテレビ(モニター)でも、HDCP対応のDVI端子がある場合は、HDMI-DVI変換ケーブルを使えば本機と接続できます。

HDMI映像出力フォーマット

HDMI映像出力のフォーマットを切り換えることができます。

HDMI出力をオンにしたときに、フロントパネルのディスプレイに「HDMI」と「フォーマットの種類」が表示されます。表示が消えないうちに方向ボタン(上下)で切り換えてください。



(i : インターレース、p : プログレッシブ)

HDMI端子のある機器と接続している場合、通常は「Auto」に設定してください。受信側が推奨するフォーマットを自動的に選択します。

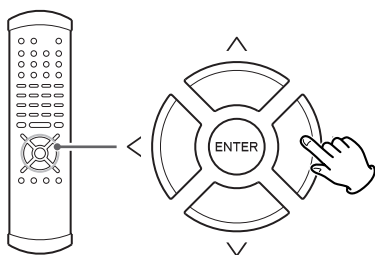
HDMI端子がない機器のHDCP対応のDVI端子と接続している場合は、「Auto」に設定すると自動的に1080pになります。

HDMIレベル

HDMI端子に接続した場合、テレビ(モニター)の種類によっては黒が浮くことがあります。

このようなときは、HDMIレベルを「EXPAND」に切り換えてみてください。

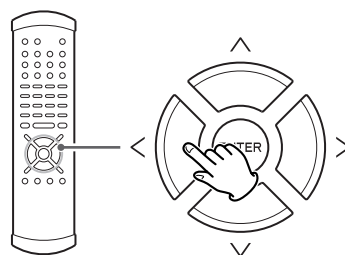
HDMI出力をオンにしたときに、フロントパネルのディスプレイに「HDMI」と「フォーマットの種類」が表示されます。表示の消えないうちに方向ボタン(右)を押して、「EXPAND」または「NORMAL」を選んでください。



HDMI出力画面のアスペクト比

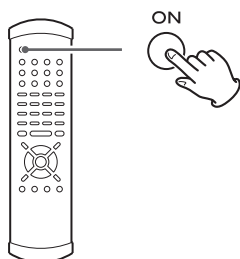
HDMI端子に接続しHDMI映像出力フォーマットを720pまたは1080iに設定した場合、アスペクト比4:3のDVDを再生すると映像が横長になることがあります。このようなときは、テレビ側の設定を変更してください。テレビで切り換えができないときは、HDMI出力画面のアスペクト比を「4:3」に切り換えてみてください。

HDMI出力をオンにしたときに、フロントパネルのディスプレイに「HDMI」と「フォーマットの種類」が表示されます。表示の消えないうちに方向ボタン(左)で「4:3」または「FULL」を選んでください。

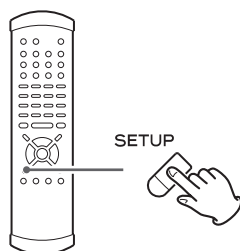


設定画面について

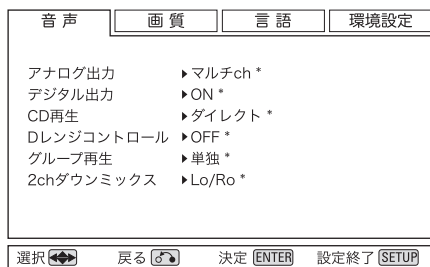
1 本機とテレビの電源を入れる。



2 SETUPボタンを押す。



設定画面が表示されます。

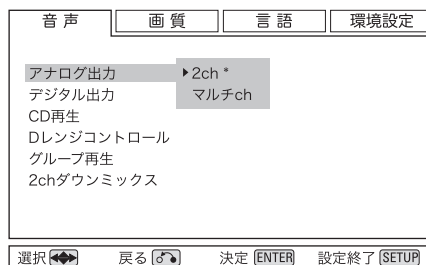
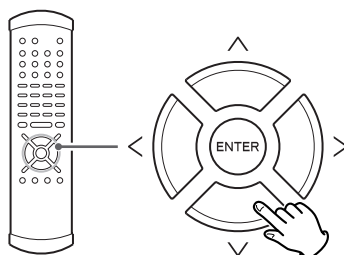


- ディスクの再生中でも設定画面は表示できますが、変更できない項目があります。その場合はSTOPボタンを押して再生を停止してください。リジューム機能が働いているときはもう一度STOPボタンを押して完全に停止させてください。

- 設定を中断する場合は、もう一度SETUPボタンを押してください。

設定画面では、工場出荷時の設定に「*」が付いています。

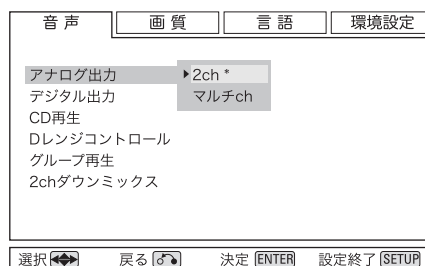
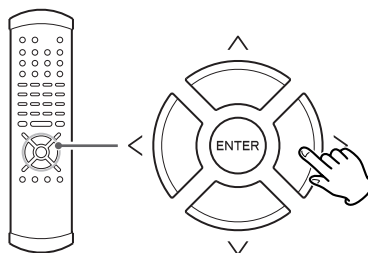
3 方向ボタンで設定する項目を選ぶ。



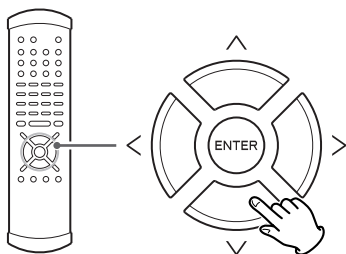
- 画面を切り換えるときは、何も選択していない状態(カーソルが消えた状態)で方向ボタン(左右)を押してください。

方向ボタン(左上)を押してカーソルを一番上に移動するか、RETURNボタンを数回押すと、カーソルが消えます。

4 方向ボタン(右)を押して選択肢の欄にカーソルを移動する。



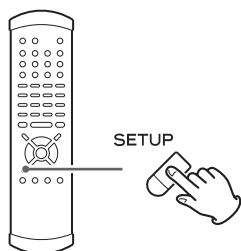
5 方向ボタン(上下)で設定したい選択肢にカーソルを合わせてENTERボタンを押す。



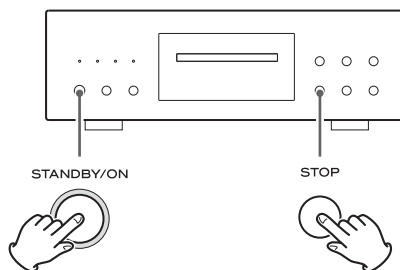
各設定内容については、42～57ページをお読みください。

複数の項目を設定する場合は、**3**～**5**の操作をくり返してください。

6 設定が終わったら、SETUPボタンを押して設定を終了する。



工場出荷時の状態に戻すには



設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

以下の操作をすると、設定した内容を工場出荷時の状態に戻し、すべてのメモリーを消去します。

1. 電源をオフにする。

電源がオンだった場合は、STANDBY/ONボタンを押して電源をオフにしてから30秒以上待ってください。

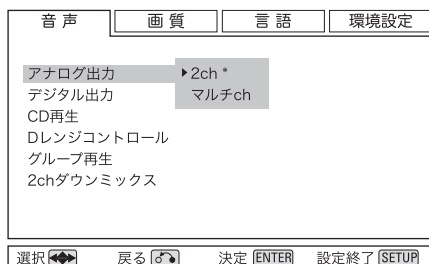
2. STOPボタンを押しながらSTANDBY/ONボタンを押す。

ディスプレイに「Setup CLR (設定消去)」が表示されたらSTOPボタンから指を離してください。

設定(音声) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

アナログ出力

[音声→アナログ出力]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

2ch :

2ch/5.1chアナログ音声出力端子とi.LINK(AUDIO)端子とHDMI端子から2チャンネルの音声を出力します。サラウンドの音声は、2チャンネルにダウンミックスして出力します。ダウンミックス中はDOWN MIXインジケータが点灯します。

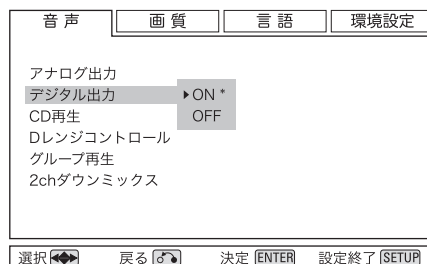
マルチch :

5.1chアナログ音声出力端子、i.LINK(AUDIO)端子、またはHDMI端子にAVアンプを接続したときに選んでください。5.1チャンネルの独立した音声出力されません。

- 「マルチch」に設定すると、2chアナログ音声出力端子からはフロントL/Rの音声だけが出力されます。
- DVDオーディオによっては、ダウンミックスが禁止されていることがあります。その場合は、「2ch」に設定してもダウンミックスできません。DOWN MIXインジケータも点灯しません。
- 「スピーカー設定」を正しく行わないと、「マルチch」に設定しても5.1チャンネルの音声は正しく出力されません。お使いのスピーカーシステムに合わせて設定を行ってください。(50ページ)
- サラウンド非対応の機器のHDMI端子と接続した場合、「マルチch」に設定すると、ダウンミックスせずにフロントL/Rの音声だけが伝送されます。
- 「2ch」と「マルチch」を切り換えると、音量が変化します。

デジタル出力

[音声→デジタル出力]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

ON :

デジタル出力端子とi.LINK(AUDIO)端子とHDMI端子から音声を出力します。これらの端子に機器が接続されているときは、「ON」にしてください。

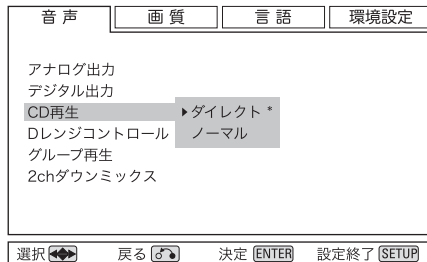
OFF :

デジタル出力端子とi.LINK(AUDIO)端子とHDMI端子から音声を出力しません。これらの端子を使わないときは「OFF」にすると、アナログ音声出力端子の音質が良くなります。

- デジタル出力端子(COAXIALまたはOPTICAL)とHDMI端子からは、スーパーオーディオCDのデジタル音声は出力できません。

CD再生

[音声→CD再生]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

ダイレクト：

スピーカー設定などの回路をバイパスします。2チャンネルでお聴きになる場合などはこちらを選択してください。

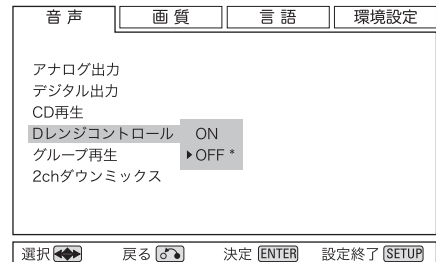
ノーマル：

i.LINK (AUDIO)端子をアンプと接続し、本機でスピーカー設定をしてマルチチャンネルでお聴きになる場合などはこちらを選択してください。

DTS-CD(DTSデジタルサラウンド方式で記録されたCD)を再生する時にはこちらを選択してください。

Dレンジコントロール

[音声→Dレンジコントロール]



ダイナミックレンジコントロールのオンとオフを切り換えます。方向ボタンで「ON」または「OFF」を選んでENTERボタンを押してください。

ON：

「ON」にすると、ドルビーデジタル対応のディスクを再生するときに、ダイナミックレンジ(大小の音量差)を小さくして音を抑えることができます。会話などの音声が聞きづらい場合や、夜間など音を控えめにしたいときに便利です。

OFF：

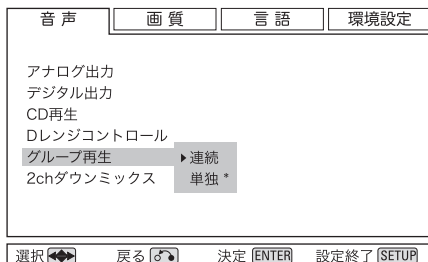
ダイナミックレンジコントロールを使わずにそのままの音で再生します。

- ダイナミックレンジコントロールの効果は、再生するディスク、お使いのスピーカーやアンプによって異なります。

設定(音声) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

グループ再生

[音声→グループ再生]



DVDオーディオのグループの再生方法を切り換えます。方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

連続：

すべてのグループを続けて再生します。

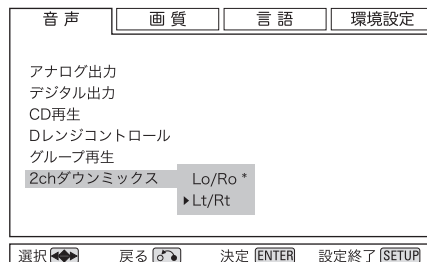
単独：

選択したグループだけを再生します。

- ディスクによっては、メニュー画面を使って、再生するグループを選択できます。
- 「単独」に設定した場合、早送りまたは頭出しで次のグループに移動することはできません。
- 「連続」に設定しても、メニュー画面に移った場合は、次のグループに移動することはできません。

2ch ダウンミックス

[音声→2ch ダウンミックス]



2チャンネルにダウンミックスする場合は、ミックスの方法を選んでください。

Lo/Ro：

通常のステレオ音声にダウンミックスされます。ステレオなどで再生する場合はこちらを選んでください。

Lt/Rt：

ドルビーサラウンドと互換性のある2チャンネル音声としてエンコードされます。

- 2チャンネル/マルチチャンネルの切り換えは、「アナログ出力」の設定で行ってください。(42ページ)
- DVDオーディオ、スーパーオーディオCDの場合は、この設定は無視されて通常のステレオ音声(Lo/Ro)にダウンミックスされます。

設定(画質) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

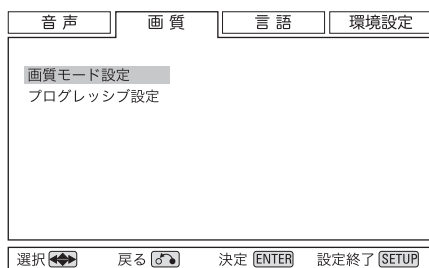
画質モード

[画質→画質モード]

各設定項目を細かく調整してお好みの画質にすることができます。

- 再生中または一時停止中に操作すれば、映像を見ながら画質を調整することができます。
- 従来の4:3のテレビでDVDを再生しているときに画質調整画面を表示させると、画面が一時的に乱れることがあります。故障ではありません。

1 方向ボタンで「画質モード」を選んでENTERボタンを押す。



2 方向ボタン(左右)で設定を選ぶ。

リファレンス：

標準的な画質です。

メモリー1/メモリー2/メモリー3：

お好みの画質に調節してメモリーに登録します。既に設定が登録されている番号を選んだ場合は、新しい設定が上書きされます。

3 ENTERボタンを押す。

「リファレンス」を選んだ場合は、前の画面に戻りますので、SETUPボタンを押して終了してください。

「メモリー1/2/3」を選んだ場合は、調整項目が表示されますので、4に進んでください。

4 方向ボタン(上下)で調整項目を選び、方向ボタン(左右)で設定を変える。

複数の項目を設定する場合は、4の操作をくり返してください。

シャープネス

画像の鮮明度を調整します。

コントラスト

画像のコントラストを調整します。

ブライトネス

画像の明るさを調整します。

ガンマ

画像の暗い部分の見え方を強調します。

色あい

緑色と赤色のバランスを調整します。

プログレッシブ映像と、S映像出力/映像出力にのみ効果があります。

色の濃さ

色の濃さを調整します。

色ののり具合に効果があります。

クロマディレイ

映像の輝度(Y)信号と色(C)信号のズレを調整します。

プログレッシブ映像にのみ、効果があります。

黒セットアップ

黒色の浮きを補正し、立体感のある引き締まった映像を再現します。通常は「0 IRE」にしてください。

黒がつぶれて見にくい場合などは「7.5 IRE」にしてください。

- シャープネス、ガンマ、色あいは、HDMI端子から出力される映像には反映されません。

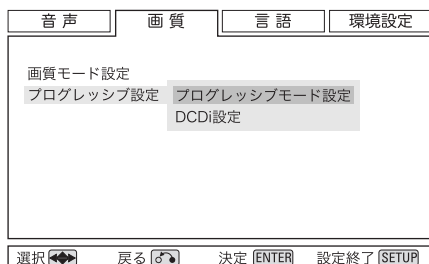
5 調整が終わったら、RETURNボタンを数回押して元の画面に戻る。

設定画面を終了する場合は、SETUPボタンを押してください。

設定(画質) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

プログレッシブモード

[画質→プログレッシブ設定→プログレッシブモード]



1. 方向ボタンで「プログレッシブモード」を選んでENTERボタンを押す。
2. 方向ボタン(左右)で「オート」または「ビデオ」を選んでENTERボタンを押す。
設定が変更されて、前の画面に戻ります。全ての設定が終わったら、SETUPボタンを押して終了してください。

- HDMI端子(38ページ)をオンにすると、コンポーネント映像出力端子からは、プログレッシブに設定していてもインターレースの信号が出力されます。

プログレッシブモードについて

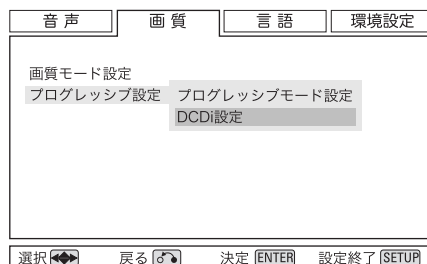
DVDの映像信号には次の2種類があります。

- ・「ビデオ素材」と言われる映像情報を毎秒30コマで記録した信号
- ・「フィルム素材」と言われる映像情報を毎秒24コマで記録した信号

フィルム素材である映画フィルムは毎秒24コマ(24Hz)で記録されています。「ビデオ」を選ぶと、毎秒24コマで記録された映像情報を毎秒60コマのプログレッシブ画面に変換する際に、ディスクに記録された処理情報をもとにオリジナルの映画フィルムに忠実な走査線を構成することにより、原画に近い鮮明な映像をお楽しみいただけます。プログレッシブモードは通常は「オート」をお選びください。ディスクによっては、輪郭がギザギザになったりブレて見えることがあります。その場合は「ビデオ」に変えてみてください。

DCDi

[画質→プログレッシブ設定→DCDi]



プログレッシブ画像に変換する際に、画像の輪郭を補正し自然なイメージを投影するDCDi回路をオン/オフします。特にビデオ素材に有効です。

1. 方向ボタンで「DCDi設定」を選んでENTERボタンを押す。
2. 方向ボタン(左右)で「AUTO」、「ON」、または「OFF」を選んでENTERボタンを押す。

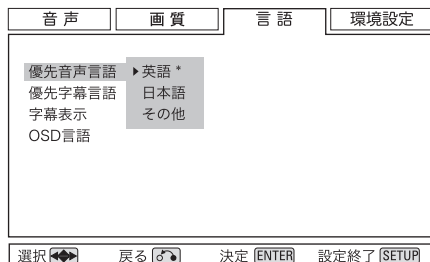
設定が変更されて、前の画面に戻ります。全ての設定が終わったら、SETUPボタンを押して終了してください。

- ビデオ素材のプログレッシブ映像で斜めの線にギザギザが目立つ場合は「ON」にしてみてください。
フィルム素材でも、ディスクの映像によっては滑らかさと深みを増す効果が得られることがあります。
- 「AUTO」を選択すると、ディスクに記録されている素材情報に従って、ビデオ素材のときは「ON」、フィルム素材のときは「OFF」に自動的に切り換わります。ただし、ディスクによっては正常に切り換わらないことがあります。

設定(言語) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

優先音声言語

[言語→優先音声言語]



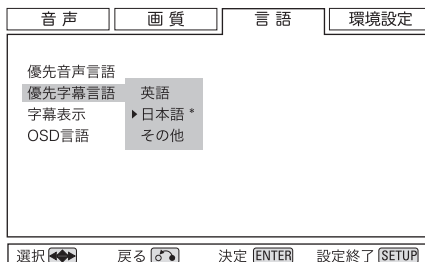
ディスクに入っている音声のうち、通常はどの言語の音声にするか選んでおくことができます。再生中にAUDIOボタンで音声言語を変えた場合でも、ディスクを交換したときは、この設定で選んだ言語になります。

方向ボタンで言語を選んでENTERボタンを押してください。

- 再生中は設定を変更できません。
- 「その他」の言語を選ぶ場合は、48ページをお読みください。
- 選択した言語がディスクに記録されていないときは、そのディスクのオリジナルの言語が選択されます。

優先字幕言語

[言語→優先字幕言語]



ディスクに入っている字幕のうち、通常表示する字幕の言語を選んでおくことができます。再生中にSUBTITLEボタンを押して字幕言語を変えた場合でも、ディスクを交換したときは、この設定で選んだ言語になります。

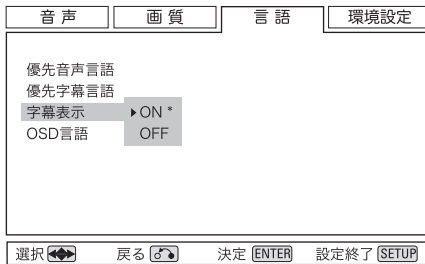
方向ボタンで言語を選んでENTERボタンを押してください。

- 再生中は設定を変更できません。
- 「その他」の言語を選ぶ場合は、48ページをお読みください。
- 選択した言語がディスクに記録されていないときは、そのディスクのオリジナルの言語が選択されます。

設定(言語) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

字幕表示

[言語→字幕表示]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

- 再生中は設定を変更できません。

ON :

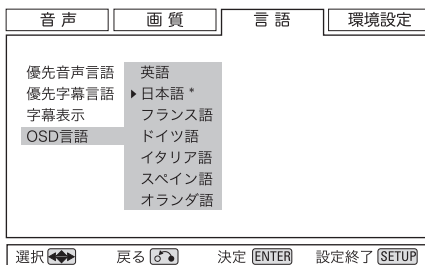
字幕を表示します。

OFF :

字幕を表示しません。ただし、ディスクによっては字幕をオフにできないことがあります。

OSD言語

[言語→OSD表示]

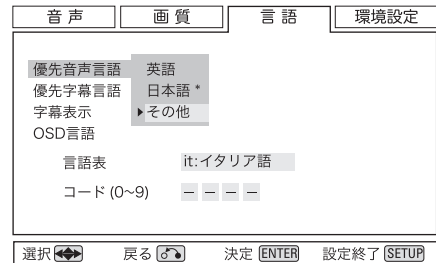


設定画面などで使用する言語を切り換えることができます。方向ボタンで言語を選んでENTERボタンを押してください。

日本語/英語以外の言語を選ぶには

1. 「その他」を選んでENTERボタンを押す。

カーソルが「言語表」に移動します。



2. もう一度ENTERボタンを押す。

言語表が表示されます。

3. 言語を選ぶ。

- ・言語表の中に選びたい言語が見つかったら：方向ボタンで言語を選んでENTERボタンを押してください。言語が選択されます。

- ・言語表の中に選びたい言語がない場合は：

3-1. RETURNボタンを押して前の画面に戻る。

3-2. 方向ボタン(上下)を押してカーソルをコード入力欄に移動する。

3-3. 言語を選ぶ。

49ページの言語コード表を使って、選択したい言語の入力コードを調べ、数字キーで4桁の入力コードを入力してください。

4. SETUPボタンを押して終了する。

言語コード表

言語名(言語コード)	入力コード
Japanese (ja)	1001
English (en)	0514
French (fr)	0618
German (de)	0405
Italian (it)	0920
Spanish (es)	0519
Chinese (zh)	2608
Dutch (nl)	1412
Portuguese (pt)	1620
Swedish (sv)	1922
Russian (ru)	1821
Korean (ko)	1115
Greek (el)	0512
Afar (aa)	0101
Abkhazian (ab)	0102
Afrikaans (af)	0106
Amharic (am)	0113
Arabic (ar)	0118
Assamese (as)	0119
Aymara (ay)	0125
Azerbaijani (az)	0126
Bashkir (ba)	0201
Byelorussian (be)	0205
Bulgarian (bg)	0207
Bihari (bh)	0208
Bislama (bi)	0209
Bengali (bn)	0214
Tibetan (bo)	0215
Breton (br)	0218
Catalan (ca)	0301
Corsican (co)	0315
Czech (cs)	0319
Welsh (cy)	0325
Danish (da)	0401
Bhutani (dz)	0426
Esperanto (eo)	0515
Estonian (et)	0520
Basque (eu)	0521
Persian (fa)	0601
Finnish (fi)	0609
Fiji (fj)	0610
Faroese (fo)	0615
Frisian (fy)	0625
Irish (ga)	0701
Scots-Gaelic (gd)	0704
Galician (gl)	0712

言語名(言語コード)	入力コード
Guarani (gn)	0714
Gujarati (gu)	0721
Hausa (ha)	0801
Hindi (hi)	0809
Croatian (hr)	0818
Hungarian (hu)	0821
Armenian (hy)	0825
Interlingua (ia)	0901
Interlingue (ie)	0905
Inupiak (ik)	0911
Indonesian (in)	0914
Icelandic (is)	0919
Hebrew (iw)	0923
Yiddish (ji)	1009
Javanese (jw)	1023
Georgian (ka)	1101
Kazakh (kk)	1111
Greenlandic (kl)	1112
Cambodian (km)	1113
Kannada (kn)	1114
Kashmiri (ks)	1119
Kurdish (ku)	1121
Kirghiz (ky)	1125
Latin (la)	1201
Lingala (ln)	1214
Laothian (lo)	1215
Lithuanian (lt)	1220
Latvian (lv)	1222
Malagasy (mg)	1307
Maori (mi)	1309
Macedonian (mk)	1311
Malayalam (ml)	1312
Mongolian (mn)	1314
Moldavian (mo)	1315
Marathi (mr)	1318
Malay (ms)	1319
Maltese (mt)	1320
Burmese (my)	1325
Nauru (na)	1401
Nepali (ne)	1405
Norwegian (no)	1415
Occitan (oc)	1503
Oromo (om)	1513
Oriya (or)	1518
Panjabi (pa)	1601
Polish (pl)	1612

言語名(言語コード)	入力コード
Pashto, Pushto (ps)	1619
Quechua (qu)	1721
Rhaeto-Romance (rm)	1813
Kirundi (rn)	1814
Romanian (ro)	1815
Kinyarwanda (rw)	1823
Sanskrit (sa)	1901
Sindhi (sd)	1904
Sangho (sg)	1907
Serbo-Croatian (sh)	1908
Sinhalese (si)	1909
Slovak (sk)	1911
Slovenian (sl)	1912
Samoa (sm)	1913
Shona (sn)	1914
Somali (so)	1915
Albanian (sq)	1917
Serbian (sr)	1918
Siswati (ss)	1919
Sesotho (st)	1920
Sundanese (su)	1921
Swahili (sw)	1923
Tamil (ta)	2001
Telugu (te)	2005
Tajik (tg)	2007
Thai (th)	2008
Tigrinya (ti)	2009
Turkmen (tk)	2011
Tagalog (tl)	2012
Setswana (tn)	2014
Tonga (to)	2015
Turkish (tr)	2018
Tsonga (ts)	2019
Tatar (tt)	2020
Twi (tw)	2023
Ukrainian (uk)	2111
Urdu (ur)	2118
Uzbek (uz)	2126
Vietnamese (vi)	2209
Volapük (vo)	2215
Wolof (wo)	2315
Xhosa (xh)	2408
Yoruba (yo)	2515
Zulu (zu)	2621

設定(スピーカー設定)

5.1chアナログ音声出力端子、i.LINK端子、またはHDMI端子をAVアンプと接続し、本機でスピーカー設定してお聴きになる場合は、50～52ページのスピーカー設定を行ってください。

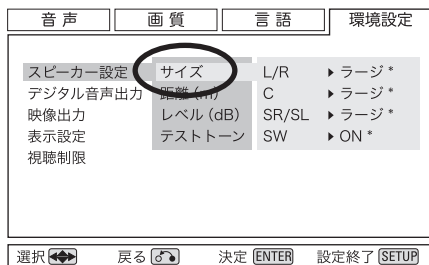
「5.1chアナログ音声出力端子、i.LINK端子、またはHDMI端子を使わない場合」、または「AVアンプ側でスピーカー設定する場合」は、本機で設定する必要はありません。本機のスピーカー設定は工場出荷時の状態にしておいてください。

- スピーカー設定は、「アナログ出力」の設定が「マルチch」のときに、i.LINK端子、HDMI端子、アナログ音声出力端子から出力される信号に反映されます。
- 以下の場合、「スピーカー設定」で設定した項目はすべて無視されます。
 - ・「アナログ出力」の設定が「2ch」のとき
 - ・i.LINK端子を「60958」に設定してDVDビデオを再生した場合

スピーカーのサイズ設定

[環境設定→スピーカー設定→サイズ]

1 方向ボタンで「スピーカー設定」の中の「サイズ」を選ぶ。

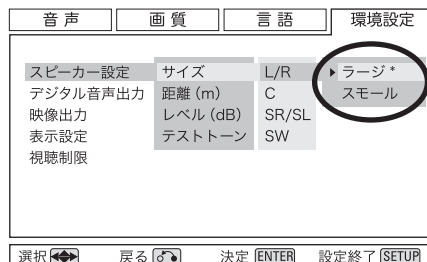


2 方向ボタンでサイズを変更したいスピーカーを選んで、方向ボタン(右)を押す。



L/R : フロントスピーカー
C : センタースピーカー
SR/SL : サラウンドスピーカー
SW : サブウーハー

3 方向ボタン(上下)で各スピーカーのサイズを選んで、ENTERボタンを押す。



ラージ :

低音まで再生できる大きいスピーカーを使う場合はこちらを選択してください。

スモール :

小さいスピーカーを使う場合はこちらを選択してください。「スモール」に設定したチャンネルの低音はサブウーハーから出力されます。

OFF :

そのチャンネルのスピーカーを使わない場合、「OFF」にしてください。「OFF」に設定したチャンネルの音声は他のチャンネルに振り分けられます。

ON (サブウーハーのみ) :

サブウーハーを使うときは「ON」にしてください。

- L/Rは「OFF」にできません。
- センタースピーカー(C)またはサラウンドスピーカー(SR/SL)が「OFF」の状態でもマルチチャンネルのディスクを再生すると、強制的にダウンミックスされます。(ダウンミックスが禁止されている場合を除く)
- ダウンミックスする場合は、ダウンミックスしないときと比べると音量が変化します。
- ダウンミックスによりサブウーハーとその他のスピーカーの音量が違って聞こえる場合は、「スピーカー設定」の「レベル」で調節するか(52ページ)、サブウーハー本体の音量で調節してください。

4 設定が終わったら、RETURNボタンを数回押して元の画面に戻る。

設定画面を終了する場合は、SETUPボタンを押してください。

スピーカーの距離設定

[環境設定→スピーカー設定→距離]

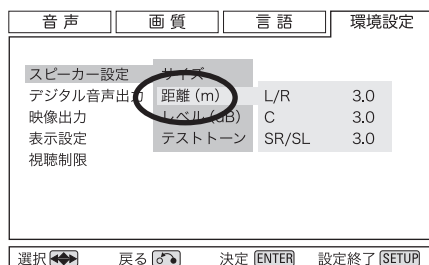
同一サイズのスピーカーを視聴位置から等距離に配置するのが理想です。等距離に置けない場合、本機は自動的にディレイタイムを設定することによって理想に近づけます。

スピーカーの距離設定は、スーパーオーディオCDの再生時は無効になります。

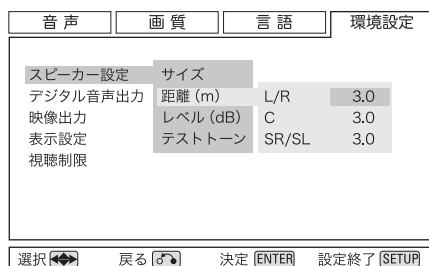
i.LINK端子の場合はi.LINKボタン(37ページ)で「PCM」を選び、DVDビデオまたはDVDオーディオを再生した場合のみ、有効です。

HDMI端子の場合は、「デジタル音声出力」(53ページ)のDolby Digital、dts、MPEG Audioを全部「PCM」に設定し、DVDビデオまたはDVDオーディオを再生した場合のみ、有効です。

1 方向ボタンで「スピーカー設定」の中の「距離」を選ぶ。



2 方向ボタンでスピーカーを選んでから、方向ボタン(右)を押してカーソルを数値の上に移す。



3 方向ボタン(上下)で数値を変更する。

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定します。距離を設定すると、ディレイタイム(遅延時間)が自動的に設定されます。

工場出荷時は3mに設定されています。

L/R (フロントスピーカー) :

0.3m~9.0mの範囲で0.1m刻みで設定できます。

C (センタースピーカー) :

フロントスピーカーの設定より1.7m短い距離から、フロントスピーカーと同じ距離まで、0.1m刻みで設定できます。ただし、最小値は0mです。

SR/SL (サラウンドスピーカー) :

フロントスピーカーの設定より9m短い距離から、フロントスピーカーと同じ距離まで、0.1m刻みで設定できます。ただし、最小値は0mです。

- L/Rの設定値を変更すると、CとSR/SLの設定値も同時に変わります。L/Rを設定してからCとSR/SLを設定してください。
- L/Rの距離が設定範囲外の場合は、CとL/R、SR/SLとL/Rの差が合うように数値を設定してください。

4 設定が終わったら、RETURNボタンを数回押して元の画面に戻る。

設定画面を終了する場合は、SETUPボタンを押してください。

設定(スピーカー設定)

スピーカーのレベルの調節

[環境設定→スピーカー設定→レベル]

- 1** 方向ボタンで「スピーカー設定」の中の「レベル」を選ぶ。



- 2** 方向ボタンで「テスト開始」を選び、ENTERを押す。



テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。

- テストトーンの音量が小さくて聞こえない場合、または大きすぎる場合は、アンプ側で音量を調節してください。
- サブウーハーから出力されるテストトーンは、周波数帯域が低音のみなので、他のスピーカーから出力される音よりも小さく聞こえます。サブウーハーのレベルは、テストトーンではなく、低音(サブウーハーチャンネル)の入った聴き慣れたソースを再生して確認してください。
- i.LINKの設定が「60958」のときはテストトーンを出力しません。「PCM」を選んでください。(37ページ)
- スーパーオーディオCDがセットされているとき(またはセットされていたとき)は、テストトーンを出力しません。ディスクを抜いて、一度電源を入れ直してから操作してください。

- 3** 各スピーカーからの音の大きさが同じに聞こえるように調節する。



方向ボタンを使って、変更したいスピーカーの数値の上にカーソルを移動して、方向ボタン(上下)で音量を調節してください。

−12dB~0dBの範囲で、0.5dB刻みに調節できません。

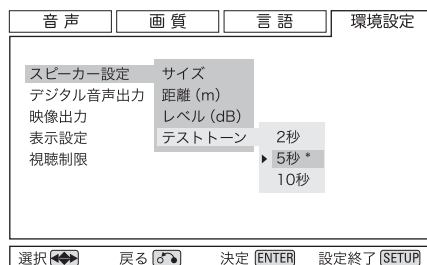
- レベルを+側に設定した場合、ソースによっては音が歪むことがあります。

- 4** 調節が終わったら、RETURNボタンを数回押して元の画面に戻る。

設定画面を終了する場合は、SETUPボタンを押してください。

テストトーンの長さの変更

[環境設定→スピーカー設定→テストトーン]

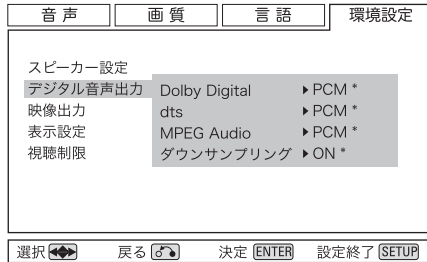


レベル調節のときに出力するテストトーンの長さを変えることができます。方向ボタンでお好みの長さを選んでENTERボタンを押してください。

設定(環境設定) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

デジタル音声出力

[環境設定→デジタル音声出力]



デジタル出力端子とHDMI端子から出力するデジタル音声の出力方法を選びます。i.LINKボタンで「60958」を選んだ場合は、i.LINK端子からもここで選んだ方法で出力します。方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

Dolby Digital

ストリーム：

ドルビーデジタル信号をそのまま出力します。
ドルビーデジタル対応のアンプと接続し、アンプ側でデコードするときに選んでください。

PCM：

ドルビーデジタル信号をPCMに変換して出力します。
本機と接続したCDレコーダーやMDデッキでデジタル録音するときに選んでください。
(PCM：CDなどで使用される一般的なデジタル音声)

dts

ストリーム：

DTS信号をそのまま出力します。
DTS対応のアンプと接続し、アンプ側でデコードするときに選んでください。

PCM：

DTS信号をPCMに変換して出力します。
本機と接続したCDレコーダーやMDデッキでデジタル録音するときに選んでください。

- DTSに対応していない機器と接続しているときは「ストリーム」に設定しないでください。ノイズが発生することがあります。

MPEG Audio

ストリーム：

MPEG信号をそのまま出力します。MPEG対応のアンプと接続し、アンプ側でデコードするときに選んでください。

PCM：

MPEG信号をPCMに変換して出力します。5.1チャンネルの信号は自動的にダウンミックスされます。
本機と接続したCDレコーダーやMDデッキでデジタル録音するときに選んでください。

ダウンサンプリング

ON：

デジタル音声を48kHz/44.1kHzにダウンサンプルして出力します。96kHz/88.2kHzに対応していないアンプと接続したときに選んでください。

OFF：

96kHz/88.2kHz対応のアンプまたはDACと接続したときに選んでください。

- デジタル出力端子(COAXIAL/OPTICAL)の場合は、ダウンサンプリングを「OFF」に設定しても、ディスクによっては強制的に48kHz/44.1kHzに変換されたり、デジタル出力されないことがあります。
また、DVDオーディオの192/176.4kHzの信号は、ダウンサンプリングを「OFF」に設定しても、強制的に96/88.2kHzにダウンサンプルされます。

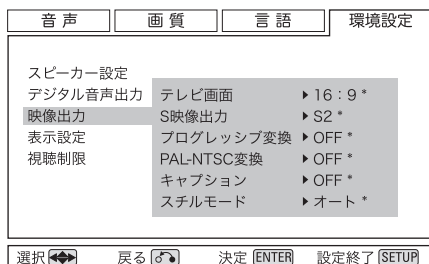
注意

- 接続した機器がドルビーデジタル/DTS/MPEGに対応していない場合、「PCM」を選んでください。
- 本機でデコードしたマルチチャンネルのPCMをHDMI端子から出力したいときは、Dolby Digital、dts、MPEG Audioを全部「PCM」に設定し、「アナログ出力」(42ページ)を「マルチch」に設定してください。
- ドルビーデジタル/DTS/MPEGに対応していない機器のHDMI端子と接続した場合、「ストリーム」に設定すると、本機は自動的にPCMに変換して出力します。

設定(環境設定) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

映像出力

[環境設定→映像出力]



映像の出力方法を選びます。
方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

テレビ画面

接続したテレビに合わせて映像の縦横比(アスペクト比)を選んでください。

- ディスクの再生中は設定を変更できません。STOPボタンを押して再生を停止してください。
- 従来のテレビは横4:縦3、ワイドテレビやハイビジョンテレビは横16:縦9の比率になっています。この横と縦の比率をアスペクト比と呼んでいます。
- ディスク側でアスペクト切替できる場合は、テレビに合わせて切り換えてください。
- アスペクトの切替ができるかどうかはディスクによって異なります。ディスクのジャケット等で確認してください。アスペクトの切替ができないディスクの場合にはテレビ側で画面を調整してください。
- テレビ側の設定によっては映像が縦長または横長になることがあります。接続するテレビの取扱説明書もお読みください。

16:9 (出荷時の設定)

16:9のワイドテレビを接続した場合。



4:3の映像



16:9の映像

4:3LB(レターボックス)

従来の4:3のテレビを接続し、16:9の映像はレターボックスで見える場合。画面の上下が黒い帯になりますが、正しく見ることができます。



4:3の映像



16:9の映像

4:3PS(パンスキャン)

従来の4:3のテレビを接続し、16:9の映像をパンスキャンで見える場合。画面の左右が切れます。



4:3の映像



16:9の映像

S映像出力

S映像出力端子にテレビを接続している場合は、S映像出力端子から出力する映像信号を切り換えることができます。

S1:

映像のアスペクト比(4:3、16:9)の識別信号の入ったS1映像信号を出力します。

S2:

S1の識別信号に加えて、アスペクト比4:3レターボックス信号の識別信号の入ったS2映像信号を出力します。S2対応のワイドテレビでは、適切な映像モードに自動的に切り換わります。

- 映像が横方向に伸びてしまうときは、「S1」に設定してください。

コンポーネント

コンポーネント映像出力端子またはD1/D2端子にテレビを接続している場合は、テレビに合わせて出力方法を選んでください。

プログレッシブ：

プログレッシブ入力対応のテレビまたはプロジェクターと接続した場合。きめ細かな映像が得られる高画質モードです。

インターレース：

プログレッシブ入力に対応していないテレビまたはプロジェクターと接続した場合。

- プログレッシブ入力に対応していないテレビと接続しているときは、「ON」を選ばないでください。設定画面を表示することができなくなります。万一、「ON」を選択してしまったときは、映像出力端子またはS1/S2映像端子をテレビと接続して設定画面を表示し、設定を「OFF」に戻してください。
- HDMI端子(38ページ)をオンにすると、コンポーネント映像出力端子からは、プログレッシブに設定していてもインターレースの信号が出力されます。

一部のプログレッシブ対応テレビ(525P/625P)は、本機のプログレッシブ出力との互換が不完全なため、プログレッシブ再生時に映像に悪影響を与えることがあります。その場合は、本機の設定を「インターレース」にしてください。

PAL-NTSC変換

PALまたはNTSCのディスクを、それぞれNTSC、PALに変換して再生することができます。

OFF(出荷時の設定)：

PALのディスクを再生したときはPAL信号を、NTSCのディスクを再生したときはNTSC信号を出力します。

PAL>NTSC：

PAL信号をNTSCに変換して出力します。
変換した画像は、縦に伸びて下部がカットされます。

NTSC>PAL：

NTSC信号をPALに変換して出力します。
変換した画像は縦に縮みます。

- 本来の画質で見るためには、この項目をOFFに設定して、それぞれのフォーマットに対応したテレビをお使いください。
- 1秒当りのコマ数の異なる映像信号に変換しますので、本来の映像の動きとは違って見える場合があります。

キャプション

ON：

クローズドキャプションの収録されたDVDの再生時に、キャプションを表示します。

OFF：

キャプションを表示しません。

- キャプションを表示するには、クローズドキャプションに対応したテレビが必要です。

スチルモード

オート：

フィールドとフレームを自動的に切り換えます。

フィールド：

DVDを一時停止したときの画像のブレを無くします。ただし、ディスクによっては「フィールド」を選択しても画像がブレることがあります。

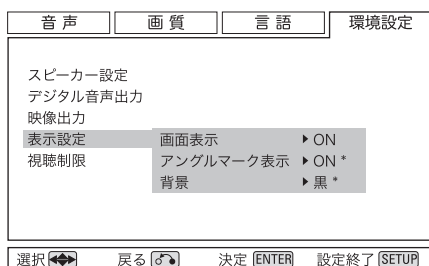
フレーム：

フィルム素材のDVDに適したモードです。ビデオ素材のDVDを一時停止すると画像がブレることがあります。

設定(環境設定)

表示設定

[環境設定→表示設定]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

画面表示

画面表示を「OFF」にすると、ボタンを操作をしたときの表示などが画面に表示されなくなります。また、DISPLAYボタンを押しても、画面には何も表示されません。

方向ボタンで「ON(表示)」または「OFF(非表示)」を選んでENTERボタンを押してください。

アングルマーク表示

ON : 表示
OFF : 表示しない

「ON」に設定すると、マルチアングルで記録された画面を再生するときに 表示しますので、マルチアングルの画面を再生しているかどうかははっきりします。方向ボタンで「ON」または「OFF」を選んでENTERボタンを押してください。

背景

ディスクが停止しているときの背景の色を選ぶことができます。方向ボタンで色を選んでENTERボタンを押してください。

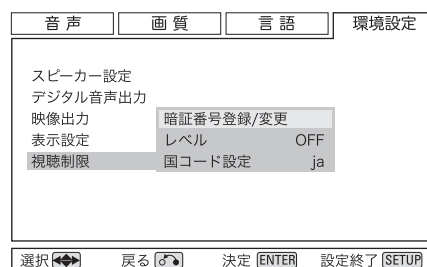
視聴制限(パレンタルロック)

暴力シーンなど、子供に見せたくない映像に視聴制限(パレンタルロック)をかける機能です。本機は、視聴制限コードが記録されているディスクに対して、視聴を制限することができます。詳しくはディスクの説明書をお読みください。

初めて視聴制限機能を使う場合は、まず暗証番号を登録してください。

暗証番号を登録するには

[環境→視聴制限→暗証番号登録/変更]



- 暗証番号を入力しないとレベルの変更はできません。暗証番号は忘れないように控えておいてください。暗証番号を忘れてしまった場合は、出荷時の設定に戻してから再度暗証番号を登録してください。

1. 方向ボタンで「暗証番号登録/変更」を選んで、ENTERボタンを押す。
暗証番号登録画面が表示されます。

2. 数字キーで4桁の暗証番号を入力する。
暗証番号が登録されます。

- 暗証番号を登録すると、「レベル設定」と「国コード設定」を選択できるようになります。

暗証番号を変更するには

[環境→視聴制限→暗証番号登録/変更]

1. 方向ボタンで「暗証番号登録/変更」を選んで、ENTERボタンを押す。
暗証番号登録画面が表示されます。

2. 数字キーで現在の暗証番号を入力する。

3. 数字キーで新しい暗証番号を入力する。
新しい暗証番号に変更されます。

視聴制限のレベルを変更するには

[環境→視聴制限→レベル設定]

1. 方向ボタンで「レベル設定」を選んで、ENTERボタンを押す。
暗証番号入力画面が表示されます。
 2. 数字キーで4桁の暗証番号を入力してENTERボタンを押す。
レベル変更の画面が表示されます。
出荷時は「オフ(無制限)」に設定されています。
 3. 方向ボタン(左右)でレベルを選ぶ。
数字が小さいほど制限が厳しくなります。
 4. ENTERボタンを押す。
レベルの変更が終わり、設定画面に戻ります。
- レベルを選んでから30秒以内にENTERボタンを押さなかった場合は、レベルは変更されません。
 - 視聴制限されたディスクを再生すると、暗証番号の入力を求める画面が表示されることがあります。その場合は、数字キーで4桁の暗証番号を入力してENTERボタンを押してください。

国コードを変更するには

[環境→視聴制限→国コード設定]

視聴制限の基準は国によって異なります。出荷時は「ja(日本)」に設定されていますが、必要に応じて変更してください。

1. 方向ボタンで「国コード設定」を選んで、ENTERボタンを押す。
暗証番号入力画面になります。
2. 数字キーで4桁の暗証番号を入力してENTERボタンを押す。
3. 数字キーで4桁の入力コードを押す。
国コード表を使って、選択したい国の入力コードを調べ、数字キーで4桁の入力コードを入力してください。

または、方向ボタン(上下)でコード表の選択肢をスクロールさせて、選択したい国コードを表示させてください。
4. ENTERボタンを押す。
国コードの変更が終わり、設定画面に戻ります。

国コード表

国名	入力コード	国コード
アメリカ	2119	us
アルゼンチン	0118	ar
イギリス	0702	gb
イタリア	0920	it
インド	0914	in
インドネシア	0904	id
オーストラリア	0121	au
オーストリア	0120	at
オランダ	1412	nl
カナダ	0301	ca
韓国	1118	kr
シンガポール	1907	sg
スイス	0308	ch
スウェーデン	1905	se
スペイン	0519	es
タイ	2008	th
台湾	2023	tw
中国	0314	cn
チリ	0312	cl
デンマーク	0411	dk
ドイツ	0405	de
日本	1016	jp
ニュージーランド	1426	nz
ノルウェー	1415	no
パキスタン	1611	pk
フィリピン	1608	ph
フィンランド	0609	fi
ブラジル	0218	br
フランス	0618	fr
ベルギー	0205	be
ポルトガル	1620	pt
香港	0811	hk
マレーシア	1325	my
メキシコ	1324	mx
ロシア	1821	ru

i.LINK (IEEE1394)

i.LINKとは、国際標準規格であるIEEE1394の別称です。本機はi.LINK(AUDIO)に対応しています。本機のi.LINK(AUDIO)端子にi.LINK(AUDIO)対応機器をi.LINKケーブルで接続すると、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかったスーパーオーディオCDのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。複数のi.LINK対応機器を接続する場合、他の機器を経由して接続してもデータのやりとりが可能ですので、接続順序を意識する必要がありません。

著作権保護システムDTCP

i.LINKを使ってスーパーオーディオCDやDVDオーディオの音声を再生するためには、再生機器とD/Aコンバーターの双方が著作権保護システム DTCP (Digital Transmission Content Protection)に対応していなければなりません。本機はDTCPに対応しています。

データ転送速度

i.LINK対応機器のデータ転送速度には、100Mbps(S100)、200Mbps(S200)、400Mbps(S400)の3種類があります。本機の最大データ転送速度は400Mbpsです。接続には、市販のS400対応の6ピンi.LINKケーブルをお使いください。

複数の機器を接続するときに、データ転送速度の遅い機器を間に挟むと、データ転送速度が遅くなります。できるだけデータ転送速度が同じ機器を上流に並べて接続してください。

注意

- i.LINKの伝送フォーマットには、本機の「i.LINK (AUDIO)」(A&Mプロトコル)の他に、BSデジタルなどの「MPEG-2 TS」、DVDレコーダーやデジタルビデオの「DV」などがあります。本機にi.LINK(AUDIO)非対応の機器(パソコンの周辺機器など)を接続すると、誤動作や故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。
- データ転送中は、つながっている機器のi.LINKケーブルを抜き差ししたり、電源をオン/オフしないでください。
- i.LINK対応機器によっては、電源がオンになっていないとデータを中継できないものがあります。

- i.LINKに対応していても、機器によっては動作しないことがあります。
- 受信側の機器が本機出力モードに対応していないことがあります。接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

複数のi.LINK機器を接続するには

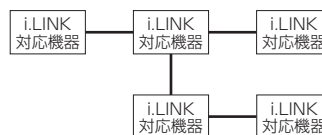
デジチェーン接続(数珠つなぎ)

数珠つなぎに一列に接続する場合は、本機を含めて17台まで接続できます。



ツリー接続

i.LINK端子を3個以上備えている機器がある場合、途中で分岐して接続することもできます。本機を含めて17台まで接続できます。



信号を出力した機器に、同じ信号が戻ってしまうと動作しません。接続が輪(ループ)にならないように注意してください。



この機器のi.LINKインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。

- 1) IEEE Std 1394a-2000, Standard for a High Performance Serial Bus
- 2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0

この規格のAM824 sequence adaptation layersの中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、スーパーオーディオCDに対応しています。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方も合わせてご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

電源が入らない。

- ➔ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ➔ 本体のSTANDBY/ONボタン(またはリモコンのONボタン)を押して、電源をオンにしてください。(22ページ)

リモコンで操作できない。

- ➔ 本体のSTANDBY/ONボタン(またはリモコンのONボタン)を押して、電源をオンにしてください。(22ページ)
- ➔ 電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。(11ページ)
- ➔ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から7メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。(11ページ)

テレビなどが誤動作する。

- ➔ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。

再生できない。

- ➔ ディスクを正しくセットしてください。ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。
- ➔ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。(10ページ)
- ➔ DVDビデオの場合、本機ではリージョンNo.2またはそれを含むディスクしか再生できません。(8ページ)
- ➔ 本機の内部が結露している場合は、電源を入れて1、2時間放置してください。(61ページ)

禁止マークが画面に出る。ボタンを押しても反応しない。

- ➔ 禁止されている操作です。(9ページ)
- ➔ 続けてボタンを押すと、機械側が対応できずに禁止マークを表示することがあります。ボタンを押すときは、機械が反応するまで少しお待ちください。
- ➔ 映画などの冒頭部分(製作会社のロゴや注意事項など)の再生中は、スキップなどの操作を受け付けないことがあります。しばらくお待ちください。

設定できない項目がある。

- ➔ 再生中は変更できない項目があります。STOPボタンを押して、再生を停止してください。リジューム機能が働いているときは、もう一度STOPボタンを押して完全に停止させてください。(40ページ)

早送り/早戻しなどが途中で止まってしまう。

- ➔ DVDでは、メニュー画面に移ると早送り/早戻しなどが止まってしまいます。(26ページ)

雑音がする。

- ➔ テレビなど強い磁気を帯びたものからはできるだけ離して設置してください。

スピーカーから音が出ない。音が歪む。

- ➔ テレビ、アンプ、スピーカーとの接続を確認してください。(12~15ページ)
- ➔ アンプなどの音量を調節してください。
- ➔ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
- ➔ 音声出力の設定を確認してください。(42、53ページ)
- ➔ デジタル出力端子と接続しているときは、「デジタル出力」の設定を「ON」にしてください。(42ページ)
- ➔ 一時停止、スロー再生中などは音が出ません。再生ボタンを押して通常の再生に戻してください。

困ったときは

スピーカーから5.1チャンネルの音声が出力されない。

- 「音声」の「アナログ出力」の設定を「マルチch」にしてください。(42ページ)
- お使いのスピーカーに合わせて「スピーカー設定」を行ってください。(50ページ)
- デジタル音声をAVサラウンドアンプでデコードしている場合は、「デジタル音声出力」の設定を「ストリーム」にしてください。(53ページ)。
- スーパーオーディオCDやDVDオーディオでは、2チャンネルとサラウンドの両方の音声を収録しているものがあります。グループまたは再生エリアを切り換えてサラウンドの音声を選んでください。(25ページ)

音量が小さい。

各スピーカーからの音量バランスがおかしい。

- 「スピーカー設定」の「レベル(dB)」で各スピーカーの出力レベルを調節してください。(52ページ)
- ダウンミックスが働いているときは、ダウンミックスされない場合と較べて音量が変化します。その場合は、アンプ側で音量を調節してください。
- 「スピーカー設定」の「サイズ」で、サブウーハー以外で「OFF」や「スモール」を選んだものがある場合、サブウーハーの音量が変化します。その場合は、サブウーハー本体の音量を調節してください。

デジタル音声を出力できない。

- 「デジタル出力」の設定を「ON」にしてください。(42ページ)
- デジタル音声出力端子とHDMI端子からは、スーパーオーディオCDのデジタル音声を出力できません。i.LINK(AUDIO)端子をお使いください。
- DVDオーディオの中にはデジタル音声を出力できないディスクがあります。

外部接続した機器でデジタル録音できない。

- 「音声」の「アナログ出力」の設定を「2ch」にし、「デジタル音声出力」の設定を「PCM」にしてください。(35、42、53ページ)
- コピー禁止信号の入っているディスクの音声をデジタル信号のまま録音することはできません。(7ページ)

DTS音声が出ない。

- DTSに対応していないアンプにデジタル接続してお聴きになる場合は、「デジタル音声出力」の「dts」の設定をPCMにしてください。(53ページ)
または、AUDIOボタンを押して他の音声を選んでください。(29ページ)
- DTS CDを再生する場合は、「CD再生」の設定を「ノーマル」にしてください。(43ページ)
- アンプ側の設定を確認してください。

96/88.2kHz音声をデジタル出力できない。

- 「デジタル音声出力」の「ダウンサンプリング」の設定を「OFF」にしてください。(53ページ)
- 著作権保護がされているディスクでは96/88.2kHz音声のデジタル出力が禁止されています。

DVD、CD、スーパーオーディオCDで音量差を感じる。

- DVD、CD、スーパーオーディオCDで音量差を感じることがありますが、これはディスクの記録方式の違いによるものです。

画面が映らない。

画像が乱れる。

- テレビとの接続を確認してください。(12ページ)
- テレビの操作および設定を確認してください。
- リモコンのVIDEO ON/OFFボタンで映像出力を「VIDEO ON」にしてください。
- HDMI端子に接続している場合は、設定を正しく行ってください。(38ページ)
- コンポーネント映像出力端子またはD1/D2映像出力端子に接続している場合は、「コンポーネント」の設定を正しく行ってください。(55ページ)
- 接続しているテレビに合わせて「PAL-NTSC変換」の設定を行ってください。(55ページ)

画面が縦または横に伸びる。

- お使いのテレビに合わせてアスペクト比を選んでください。(54ページ)
- 本機とテレビをS1/S2映像端子で接続している場合は、テレビ側の信号処理により映像が横方向に伸びてしまうことがあります。「S映像出力」の設定をS1にしてみてください。(54ページ)

DVD映像をVTRに録画したり、VTRを通して再生すると再生映像が乱れる。

- ➔ 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクをVTRを通して再生したり、VTRに録画して再生するとコピーガードシステムにより正常に再生されません。本機の映像出力は、VTRを通さずにモニターと直接接続してください。

DISPLAYボタンを押しても反応しない。 早送りやスロー再生中に、速度(▶▶ ×8など) が表示されない。

- ➔ 「表示設定」の「画面表示」を「ON」に設定してください。(56ページ)

アングルマークが画面に表示されない。

- ➔ 「表示設定」の「アングルマーク表示」を「ON」に設定してください。(56ページ)
- ➔ マルチアングル映像の収録されたDVDビデオを再生してください。

映像と音声があわない。

- ➔ リップシンク機能で調節してください。(30ページ)

「No Word!」が表示される。

- ➔ ワードクロックが入力されていません。外部マスタークロックジェネレーターとの接続、マスタークロックジェネレーターの電源や出力状態を確認してください。
- ➔ ワードクロックが入力されていない時は、ワードシンクはオフにしてください。(31ページ)

「WRD UNLCK!」が表示される。

- ➔ 同期できない信号が入力されている可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。

ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

結露現象について

本機を寒い戸外から暖かい室内に持ち込んだり、設置した部屋の暖房を入れた直後などには、動作部やレンズに水滴がついて正常に動作しないことがあります。この場合は、電源を入れて1～2時間そのまま放置してください。正常に再生できるようになります。

仕 様

再生可能ディスク

DVDビデオ、DVDオーディオ、スーパーオーディオCD、CD、ビデオCD、DVD-R、DVD-RW

映像出力

S1/S2映像出力

Y出力レベル..... 1 Vp-p (75Ω)

C出力レベル..... 286 mVp-p (75Ω)

出力端子..... S端子

映像出力

出力レベル..... 1 Vp-p (75Ω)

出力端子..... RCA端子

コンポーネント映像出力

Y出力レベル..... 1 Vp-p (75Ω)

Cb/Pb、Cr/Pr出力レベル..... 0.7 Vp-p (75Ω)

出力端子..... RCA端子

D1/D2端子(Y、Cb/Pb、Cr/Pr)

Y出力レベル..... 1 Vp-p (75Ω)

Cb/Pb、Cr/Pr出力レベル..... 0.7 Vp-p (75Ω)

出力端子..... D端子

HDMI端子

出力端子..... 19ピン (Ver1.1準拠)

アナログ音声出力

端子..... XLR端子(2ch)×1

RCA端子(2ch)×1

RCA端子(5.1ch)×1

最大出力レベル (1kHz、フルスケール)

XLR : 2.2 Vrms±0.1V/10kΩ

RCA : 2.2 Vrms±0.1V/10kΩ

周波数特性..... 5Hz~88kHz (DVDオーディオ)

S/N比..... 130dB

ダイナミックレンジ..... 107dB

歪率..... 0.002%

デコード可能フォーマット

DTS、DTS 96/24、ドルビーデジタル、

PCM 44.1kHz~192kHz/16~24bit、DSD

デジタル音声出力

光デジタル出力... 光デジタル端子×1、-15~-21dBm

同軸デジタル出力..... RCA端子×1、0.5 Vp-p/75Ω

i.LINK(AUDIO)端子×1

ワードシンク入力フォーマット

端子..... BNC

入力可能周波数 (矩形波)

44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、100kHz、

176.4kHz、192kHz

入力レベル..... TTLレベル相当/75Ω

一般

電源..... 100V AC 50-60Hz

消費電力..... 28W (スタンバイ時: 2W)

外形寸法..... 442mm x 149mm x 353mm

(WxHxD、突起部を含む)

質量..... 14kg

許容動作温度..... +5°C~+35°C

許容動作湿度..... 5%~85%(結露のないこと)

許容保管温度..... -20°C~+55°C

付属品

電源コード×1

リモコン(RC-1088)×1

リモコン用乾電池(単3)×2本

フェルト×3枚

取扱説明書×1

ご愛用者カード×1

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。

取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

■保証書

保証書はご愛用者カードと引き換えに発行いたします。添付のご愛用者カードに必要事項を御記入の上、速やかにお送りください。保証書が届きましたら、保証内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から一年です。

無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、弊社サービス部門が無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、保証書をご提示の上、弊社サービス部門またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前に弊社サービス部門にお問い合わせください。なお、離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
- ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。
- 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
 - メンテナンス
 - 保証書の提示がない場合
 - 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

59~61ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：ユニバーサルプレーヤー DV-60

お買い上げ日：

販売店名：

お客様のご連絡先

故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。

この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じてても、当社は一切の責任を負いません。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。

適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



株式会社ティアック エソテリック カンパニー

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

<http://www.teac.co.jp/av>

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30~12:00/13:00~17:00です。

AVお客様相談室



0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

電話：0422-52-5091 / FAX：0422-52-5194

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30~17:00です。

ティアック修理センター



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。